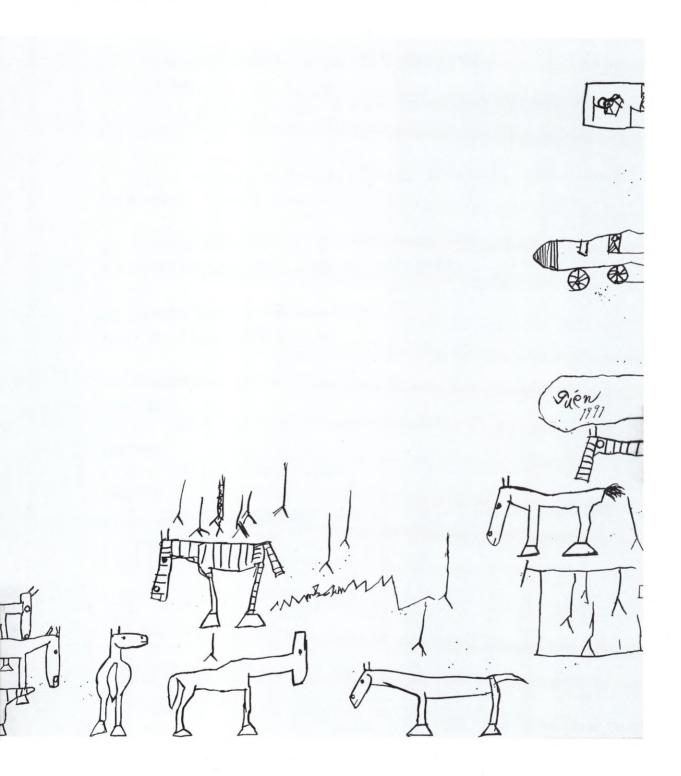
### 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 年報1995-98





表紙 壁画『創造の広場』1991年 猪熊弦一郎 撮影 フォトス 高橋 章



横 2157cm 材質 大理石 (ギリシア産) 御影石 (岐阜・美濃産)

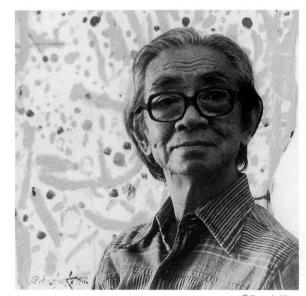
1150cm

『壁画の主題になっている馬は、人間をはじめとする生き物の代表として描いたものです。壁画のあるゲートプラザには、 壁画のほかに彫刻類もあり、この広場に立ったとき、空間の広さと美しさを感じ、それぞれの人に新たな創造の意欲がわき 出るような広場にしたかったのです』 猪熊弦一郎

### 美術館設立に寄せて

『私が少年時代を過ごした、想い出深い丸亀の地にこの美術館が建てられた事を大変嬉しく思います。 現代美術を専門に展示する美術館は、全国的にもユニークであり、丸亀市民の皆様の力で建設されたこの美術館によって、まち全体が文化的な環境になって行くことを期待しています』

猪熊弦一郎



©Francis Haar

### 凡例

作品リストは自主企画にのみ 掲載した。作品のサイズは縦 ×横cm、立体作品については 高さ×幅×奥行cmで記した。 また、猪熊弦一郎の作品の所 蔵者は、特に記していない場 合は当館である。

I II	沿革展覧会事業			
	i ii	展覧会-展覧会	一覧	(1995–1998)
		95年度	23	版画にみる マティスの世界3
		00 1 12	24	ドゥエイン・ハンソン展
			25	イサム・ノグチと勅使河原宏展5
			26	マーク・ロスコ展
			27	猪熊弦一郎 妻の肖像展······8
			28	小磯良平と猪熊弦一郎展10
		96年度	29	アントニ・タピエス
		30千尺	30	インサイドストーリー 同時代のアフリカ美術16
			31	シンディー・シャーマン展17
			32	森村泰昌展 - 「女優シリーズ」より
			33	リチャード・マイヤーとフランク・ステラ - 建築と絵画の接点19
				佐藤忠良と猪熊弦一郎展20
		07年 庄	34	佐藤忠良と角熊気一郎展
		97年度	35	- シム・タイン展 - 牙体の比喩・・・・・・・25 イサム・ノグチと三宅一生 アリゾナ・・・・・・・25
			36	ロバート・メイプルソープ ····································
			37	九亀城築城四百年記念 丸亀藩京極家名宝 野々村仁清展27
			38	
			39	いす・100のかたち ヴィトラ・デザイン・ミュージアムの名品30
			40	猪熊弦一郎の宇宙 - 顔曼陀羅
		00 45 145	41	ピカソ「愛とエロチシズム」 ピエロ・クロムランク版画コレクション …34
		98年度	42	バスキア展
			43	ジョルジュ・ブラック回顧展36
			44	猪熊弦一郎と子どもたち
			45	森村泰昌〔空装美術館〕 一絵画になった私39
			46	開館7周年記念 荻須高徳と猪熊弦一郎展40
			47	大藪雅孝展 浸透するまなざし45
_	V. 45-11	- tota - sur	48	猪熊弦一郎展 スペースの散歩46
$\coprod$	美術作品整			
	i		•••••	
IV	教育普及事	業		
	i			ップ
	ii			· 文化講演会 ······58
	iii			65
	iv			利用状況67
		ミモカ	フレ	ンド
V	その他事業			
				ムショップ60
				66
VI				7(
VII				
$V\!I\!I\!I$				·······75
IX	利用案内…			76

# I

### 沿革

1987年(昭和62年)10月	丸亀市が市制90周年事業として 猪熊弦一郎美術館の建設を発表
1000年(昭和22年) 1 日	着無弦一郎夫術館の建設を完衣 美術館建設懇談会設置
7月	美術館建設懇談会、市長に意見書提出
8月	美術館建設基本構想策定
9月	美術館基本設計委託
9月	丸亀駅前地下駐車場建設工事着工
11月	美術館準備室設置
	美術館基本設計完了
	美術館実施設計委託
	美術館基本設計変更案決定
	美術館実施設計完了
	美術館建設工事着工
12月	美術館建設工事起工式
12月	All Marie and a series of the
	「二つの岸A」等、第一回分として作品1000点を寄贈
1990年(平成2年)3月	丸亀駅前地下駐車場建設工事竣工
1991年(平成3年)3月	JR丸亀駅南口広場の整備工事完成
3 月	定礎式と壁画「創造の広場」除幕式
3 月	猪熊弦一郎に名誉市民賞授与される(丸亀市第1号)
6 月	美術館建設工事竣工
9 月	丸亀市美術館条例制定
10月	美術館の愛称が「MIMOCA」に決定
11月	落成式
11月	一般公開(23日)
1992年(平成4年)3月	入館者 5 万人達成(28日)
5 月	猪熊弦一郎から丸亀市長とのかねてからの約束に
	基づき所有する作品等を市に寄贈する主旨の文書提出
10月	入館者10万人達成 (9日)
12月	第26回サイン・デザイン賞受賞
1993年(平成5年)4月	財団法人ミモカ美術振興財団設立
5.月	猪熊弦一郎、東京にて死去(17日、満90歳)
9月	第34回建築業協会賞受賞
1994年(平成6年)5月	第7回村野藤吾賞受賞
	入館者30万人達成(4日)
1995年(平成7年)4月	ミモカフレンド発足
1996年(平成8年)4月	第5回公共建築賞(主催:社団法人・公共建築協会)、特別賞受賞(3日)
5 月	休館日改定(月曜日休館を廃止し、元旦より開館へ)
	料金体系改定(大学生料金を一般料金と分離し、高校生以下無料に)
	開館時間変更(午前10時から午後6時まで)
5 月	入館者50万人突破(15日)
	インターネット(www)にホームページ開設 (5日)
	美術館南北の市道の愛称を「美術館通り」、「いのくま通り」と設定
1998年(平成10年)11月	建設省設立50周年記念「公共建築百選」に選出
1000 + (1/2010 1/11/1	Characon Indianal Con

# I 展覧会事業 i 展覧会一覧 (1995-1998)

	No 展覧会名	会 期
	22 猪熊弦一郎の世界 作品とコレクション (年報1991~1994参照)	95年3月5日~95年5月7日
1995 (平成7年度)	23 版画にみる マティスの世界	95年5月13日~95年6月11日
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	24 ドゥエイン・ハンソン展	95年7月2日~95年8月27日
	25 イサム・ノグチと勅使河原宏展	95年9月10日~95年11月5日
	26 マーク・ロスコ展	95年11月11日~95年12月24日
	27 猪熊弦一郎 妻の肖像展	96年1月3日~96年2月25日
	28 小磯良平と猪熊弦一郎展	96年3月10日~96年5月6日
1996 (平成8年度)	29 アントニ・タピエス	96年 5 月12日~96年 6 月30日
1330 ( ) 30 0 +/2/	30 インサイドストーリー 同時代のアフリカ美術	96年7月7日~96年9月1日
	31 シンディー・シャーマン展	96年9月8日~96年10月13日
	32 森村泰昌展 - 「女優シリーズ」より-	96年9月8日~96年10月13日
	33 リチャード・マイヤーとフランク・ステラ	96年10月26日~97年1月5日
	- 建築と絵画の接点-	00   10/,1201
	34 佐藤忠良と猪熊弦一郎展	97年1月18日~97年3月30日
1997 (平成 9 年度)	35 ジム・ダイン展 — 身体の比喩	97年4月12日~97年6月8日
1001 (1/20 1/2/	36 イサム・ノグチと三宅一生 アリゾナ	97年6月22日~97年8月31日
	37 ロバート・メイプルソープ展	97年9月6日~97年10月19日
	38 丸亀城築城四百年記念 丸亀藩京極家名宝 野々村仁清展	97年10月25日~97年11月3日
	39 いす・100のかたち	97年11月8日~97年12月14日
	ヴィトラ・デザイン・ミュージアムの名作	0.   11/, 0   0.   12/,111
	40 猪熊弦一郎の宇宙 - 顔曼陀羅-	97年12月20日~98年3月1日
	41 ピカソ「愛とエロチシズム」 ピエロ・クロムランク版画コレクション	98年3月7日~98年4月12日
1998(平成10年度)	42 バスキア展	98年4月18日~98年5月31日
1000 (1/2/10 1/2/	43 ジョルジュ・ブラック回顧展	98年6月6日~98年7月19日
	44 猪熊弦一郎と子どもたち	98年7月25日~98年8月23日
	45 森村泰昌[空装美術館] -絵画になった私	98年8月30日~98年10月18日
	46 開館7周年記念 荻須高徳と猪熊弦一郎展	98年10月25日~98年12月20日
	47 大藪雅孝展 浸透するまなざし	99年1月1日~99年1月31日
	48 猪熊弦一郎展 スペースの散歩	99年2月6日~99年3月31日

### 展覧会事業

ii

展覧会

### 23 版画にみる マティスの世界

会 期 1995年5月13日(土)~6月11日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

財団法人ミモカ美術振興財団 読売新聞大阪本社,西日本放送

後 援 外務省, フランス大使館

協 力 日本航空

企画・協力 株式会社ブレーントラスト

巡 回 先 1995年4月8日(土)~5月7日(日)

富山県立近代美術館

1995年6月14日(水)~7月2日(日)

小田急美術館

1995年7月15日(土)~8月13日(日)

ふくやま美術館

鮮やかな色彩と、大胆なフォルムを自由に操り、フォーヴィストとして20世紀の芸術に大きな変革をもたらしたアンリ・マティスであるが、版画作品もその質、量の面において見逃すことはできない。

その作品には、マティス独特の流れるような線やデフォルメされた形が随所に見られる。また制作にあたっては銅版画をはじめ、石版、木版など様々な素材や技法を用いており、それぞれ特有の肌合いを持った個性豊かな作品になっている。

本展ではパリ国立図書館の所蔵品を中心に、オリエンタルな雰囲気のただようオダリスクのシリーズを始め、 鮮やかな色彩のジャズ・シリーズや黒地に白の線が印象





的な女性像のシリーズなどこれまであまり見ること のできなかったマティスの一面を1900年から1952年 にかけて制作された版画作品152点を通して紹介し た。

入場者数 4,810人

# 24 ドゥエイン・ハンソン展

会 期 1995年7月2日(日)~8月27日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団, 読売新聞大阪本社 西日本放送

後 援 アメリカ大使館

協 力 日本航空

**巡回先** 1995年4月28日(金)~5月14日(日) 大丸ミュージアム・東京 1995年10月6日(金)~10月18日(水) 近鉄アート館

スーパーリアリズムの巨匠、ドゥエイン・ハンソンは、 1960年代後半より、アメリカの日常生活の中に生きる平 凡な人々を本物そっくりに造る彫刻の制作を開始した。

ハンソンの作品は人体を石膏で型取り、その中にプラスチックとポリビニールを流し込み、人の形を造る。そこに人工の目を埋め込み、油彩で几帳面に着色し、針で頭や腕などに丁寧に毛を埋め、服を着せ、さまざまな小道具を足していく。ハンソンは実物そっくりな人物を制作することで、人をだましたり驚かせたりするのではなく、モデルとなった人物をより強調することによってアメリカ社会の本質を明らかにしようとしている。すなわち、ハンソンが創り出しているものは単なる錯覚の世界ではなく、私たちの生きている現代社会の断片であり、それは私たち自身の赤裸々な姿でもある。また、ハンソンの作品にはユーモラスな要素もあり、それぞれの作品の表情やポーズが、現代アメリカ社会を強烈に生き生きと記録している。

本展では、1967年から1992年に制作された21点の作品 で、スーパーリアリズムの神髄を紹介した。





### 関連企画

### · 記念講演会 •

7月2日(日) 13時30分~

テーマ 「現代彫刻の人間像」

講 師 中原佑介(美術評論家)

会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 75人

入場者数 21,689人

# **25** イサム・ノグチと勅使河原宏展

会 期 1995年9月10日(日)~11月5日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団

共 催 朝日新聞社, NHK高松放送局, 瀬戸内海放送

後 援 財団法人草月会

協力 株式会社オゼキ,ヤマギワ株式会社

20世紀を代表する世界的彫刻家イサム・ノグチは彫刻 という分野にとどまらず、庭園を主題とした環境芸術や 舞台芸術にと幅広く活躍したが、その根底に流れていた のは、東西の文化を結合した「地球人」としての思考で あったと言える。そうした中で生み出されたのが、岐阜 提灯からヒントを得た、照明器具「あかり」である。

一方、草月流家元であり、また映画監督などに多彩な才能を示している勅使河原宏は1973年、福井県宮崎村に「草月陶房」を開設、力強さと重厚さを持つ作品を数多く制作している。近年は新たな試みとして素材に竹を求め、多彩なフォルムでの表現をおこなっている。この2人の芸術家に共通する概念は「作品が生き、周囲の空間にも生命を与え、また人間がその中に入っていくことにより、作品と共に空間を体験する」ということである。

故ノグチと親交の篤かった勅使河原により展示構成されたノグチの「あかり」と、自ら制作した「陶器」を中心とする作品により、当美術館の独特な内部空間に創作される新しい美を紹介した。



#### 関連企画

### 記念座談会・

9月10日(日) 13時~

テ ー マ 「イサム・ノグチを語る」

パネラー 谷口吉生(建築家)

勅使河原宏

(出品作家,草月流家元,映画監督)

堂本尚郎(洋画家)

司 会 者 吉村良夫(前朝日新聞社学芸部編集委員)

会 場 2階ミュージアムホール

入場料 無料 聴講者数 319人

### コンサート -

10月21日(土)

「クリストファー遙盟·尺八の世界-イサム·ノグチに捧げる悠久の音-」

出演者 クリストファー遙盟・ブレィズデル(尺八) きむらみか(声楽),川村京子(山田流筝曲)

入場者数 10,001人









イサム・ノグチ作品と、勅使河原作品によるインスタレーション

# 26 マーク・ロスコ展

会 期 1995年11月11日(土)~12月24日(日)

主 **催** 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団

後 援 四国新聞社,NHK高松放送局 西日本放送株式会社,瀬戸内海放送 アメリカ大使館

協 力 日本航空

**企画協力** インターナショナル・スカルプチャー・センター, ワシントン D. C

2 回 先 1995年9月23日(土・祝)~11月5日(日) 川村記念美術館
 1996年1月4日(木)~2月12日(月・祝) 名古屋市美術館
 1996年2月17日(土)~3月24日(日)東京都現代美術館

現代美術史上に新たな地平を切り開いた「カラー・フィールド・ペインティング」(色面抽象)の先駆者、マーク・ロスコ (1903-1970) 創造の軌跡を辿る日本初の回顧展は、作家の遺族、並びにロスコのカタログ・レゾネを執筆中のデイヴィッド・アンファム氏の協力を得て実現の運びとなった。また猪熊弦一郎はニューヨーク滞在中にロスコと道路を隔てた向かいに住んでいたことなどから親交があり、美術館の開館前より本展覧会の開催を強く希望してもいた。

20世紀初頭のロシアにユダヤ人の子として生まれ幼少時にアメリカ合衆国に移住したロスコは、1930年代に本格的に制作を開始するが、初期の表現主義風の人物画や都市の生活風景画の時代から、エルンストらの影響を受けたシュルレアリスムの時代、また色鮮やかな様々な形態が画面全体に散らばる「マルチフォーム」の時代を経て、平坦な色面の拡がりの中に微妙な色合いの矩形が浮遊する独特の「ロスコ様式」に到達している。様々な矛盾や葛藤をはらみながらも、67歳で自ら命を絶つまで、首尾一貫して人間の奥底に潜む感情を表現する絵画を追





求したロスコの初期から晩年まで、52点でその抽象 絵画の成立過程とその展開を辿った。

#### 関連企画

### 記念講演会 -

11月19日(日) 15時~

テーマ 「絵からウロコがおちる話」

講師 森村泰昌(美術家)

会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 170人

入場者数 5,817人

# 27 猪熊弦一郎 妻の肖像展

**会 期** 1996年1月3日(水)~2月25日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団

猪熊弦一郎の画業は大正後期に始まり、昭和、平成と70年に及ぶ。生涯人を愛し常に少年の好奇心と新しいものに挑戦する勇気を持ちつづけた。渡欧しマチスに指導を受けた戦前のパリ時代、ニューヨークの魅力に取りつかれそこにアトリエを構え、20年間を過ごしたニューヨーク時代、そして、その後のハワイ・東京での生活、いつの時代にも画伯のかたわらには、生き生きと輝く文子夫人の姿があった。猪熊画伯は1926(大正15)年、ピアノ教室で知り合った片岡文子と結婚。その年新婚の婦人をモデルに描いた「婦人像」で第7回帝展に初入選、以来、パリ留学中のフォービスム的な作品、戦後マチスの強い影響下にあった頃の作品を始め、画伯の描く具象画の作品の多くは夫人をモデルにしたものであった。

1988(昭和63)年に文子夫人を失った直後、画伯の作品に突然無数の「顔」が描かれるようになった。画伯の芸術生活を支えつづけてきた最愛の夫人との永訣の深い悲しみは、言葉につくせないものであった。猪熊画伯は語っている。「私の最もよき理解者であり、また、素晴らしいモデルであった家内を亡くして、身の置き所のない悲しみに包まれた。空虚な気持ちのまま、スケッチブックに向かった。何を描こうというのではないが、何か描かずにはいられなかった。家内の思い出をたどりながら描くうちに家内がでてこないかとただひたすら描いた。そのうち顔がでてきた。」祈りにも似た気持ちで描いたこの「顔」の連作を「曼陀羅」と呼ぶ人もいる。

温かく優しい文子夫人をモデルとして生み出された愛情あふれる数々の作品は、観覧者に深い感動と安らぎを与えた。





入場者数 4,138人

作品リスト

番号	作 品 名	制作年	材 質	サイズ	所 蔵
1	婦人像	1926	油彩・カンヴァス	116.8× 91.0	
2	座像	1929	油彩・カンヴァス	$145.0 \times 101.0$	香川県文化会館
3	水差しを持てる女	1930	油彩・カンヴァス	$145.5 \times 112.0$	
4	灰色の服	1933	油彩・カンヴァス	$145.5 \times 112.5$	
5	ピアノの前	1934	油彩・カンヴァス	$180.0 \times 290.0$	
6	海と女	1935	油彩・カンヴァス	180.1 $\times$ 288.7	
7	二人	1936	油彩・カンヴァス	$194.0 \times 130.0$	
8	支那服の女	1936	油彩・カンヴァス	$145.0 \times 112.0$	
9	妻と手袋	1939	油彩・カンヴァス	$80.8 \times 60.0$	
10	サクランボ	1939	油彩・カンヴァス	$80.4 \times 65.4$	
11	赤い上着	1939	油彩・カンヴァス	$72.7 \times 60.5$	香川県文化会館
12	ヴァイオリンを持てる女	1940	油彩・カンヴァス	$80.6 \times 60.4$	
13	葉をくわえた女	1940	油彩・カンヴァス	$65.0 \times 46.0$	香川県文化会館
14	黄色いスカートの婦人	1946	油彩・カンヴァス	$80.5 \times 64.5$	
15	猫と文子	1949	油彩・カンヴァス	$79.0 \times 64.5$	
16	箱の中の子猫	1949	油彩・カンヴァス	$80.5 \times 65.0$	
17	婦人と猫	1949	油彩・カンヴァス	$80.0 \times 64.1$	
18	赤い服と猫	1949	油彩・カンヴァス	$73.0 \times 61.0$	高松市美術館
19	妻と赤い服	1950	油彩・カンヴァス	$116.5 \times 91.0$	
20	壺と婦人座像	1950	油彩・カンヴァス	$80.0 \times 65.0$	
21	顔 20D	1989	アクリル・カンヴァス	$126.0 \times 90.8$	
22	顔 10B	1989	アクリル・カンヴァス	$130.3 \times 97.1$	
23	顔 20 A	1989	アクリル・カンヴァス	$127.0 \times 96.3$	

他デッサン62点

# 28 小磯良平と猪熊弦一郎展

会 期 1996年3月10日(日)~5月6日(月)

**主 催** 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団

共 催 読売新聞大阪本社,西日本放送

後 援 NHK高松放送局, 瀬戸内海放送

日本を代表する洋画家・小磯良平(1903~1988)と猪 熊弦一郎(1902~1993)は、生涯にわたる親友であり、 良きライバルであった。

1922(大正11)年二人は東京美術学校(現・東京芸術大学)に入学し、ともに藤島武二の薫陶を受け1927(昭和2)年には、同期生による「上杜会」を結成した。二人は俊才ぞろいの同級生の中でも早くから頭角をあらわし、昭和初期に帝展を舞台に活躍した。1936(昭和11)年二人は帝展のあり方をめぐって紛糾した画壇に訣別し、7人の同志とともに自由な立場で自らの芸術的信念を貫くために「新制作派協会」を設立した。その後、新制作協会の活動などを通じて二人の親交は小磯が亡くなるまで変わることはなかった。

小磯は、西洋の古典を範としながら優れた描写で品格のある清潔な作品を描き続けた。一方、猪熊は、フランス留学でマティスの影響を受け、更にフランスへの再留学の途中立ち寄ったニューヨークの魅力にひかれ、画風は半抽象を経て本格的な抽象へと展開した。正反対とも言える性格と画歴でありながら、二人は生涯良きライバルとして互いを尊敬し、また互いに勇気づけられたといわれている。

本展では、小磯の没後7年、猪熊の没後3年を期に、 二人の画業と深い友情を回顧した。





### 関連企画

### 記念講演会・

3月10日(日) 14時~

テーマ 「小磯良平の芸術」

講師島田康寛(京都国立近代美術館学芸課長)

会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 157人

入場者数 12,607人

### 小磯良平 作品リスト

番号	作 品 名	制作年	才 5	質 サイズ	所 蔵
1	さより	1921-22頃	油彩	24.5× 45.0	神戸市立小磯 記念美術館
2	着物婦人像	1925	油彩	52.8× 52.3	兵庫県立近代 美術館
3	自画像	1925頃	油彩	30.1× 30.1	兵庫県立近代 美術館
4	和装婦人	1926	油彩	91.0× 72.0	神戸市立小磯 記念美術館
5	スペインの女	1928	油彩	95.0× 80.4	兵庫県立 近代美術館
6	踊り子	1938	油彩	130.0× 97.5	兵庫県立兵庫 高等学校武陽会
7	腰かける婦人	1938	油彩	61.0× 55.0	兵庫県立 近代美術館
8	働く人と家族	1939	油彩	$89.5 \times 130.5$	兵庫県立 近代美術館
9	裁縫する婦人	1940頃	油彩	64.8× 40.8	神戸市立小磯 記念美術館
10	踊り子	1940頃	油彩	71.7× 40.6	神戸市立小磯 記念美術館
11	K夫人ポートレート	1950	油彩	$35.2 \times 26.9$	神戸市立小磯 記念美術館
12	少女像 (肩かけをした少女)	1951	油彩	$73.0 \times 60.7$	神戸市立小磯 記念美術館
13	絵を描く男	1952	油彩	91.0× 60.5	神戸市立小磯 記念美術館
14	婦人像	1953	油彩	91.0× 64.0	姫路市美術館
15	麦刈り	1954	油彩	$162.0 \times 130.0$	姫路市美術館
16	室内の少女	1956	油彩	$97.0 \times 106.0$	神戸市立小磯 記念美術館
17	かぼちゃのある静物	1957	油彩	99.0× 91.0	神戸市立小磯 記念美術館
18	室内	1957	油彩	106.0× 97.0	姫路市美術館
19	家族	1958	油彩	106.0× 97.1	神戸市立小磯 記念美術館
20	窓	1958	油彩	$139.0 \times 130.0$	姫路市美術館
21	花	1960	油彩	$77.6 \times 57.4$	神戸市立小磯 記念美術館
22	ヨットハーバー	1960	油彩	$61.0 \times 72.5$	兵庫県立 近代美術館
23	庭	1960頃	油彩	65.0× 45.4	神戸市立小磯 記念美術館
24	アトリヱにて	1962	油彩	$79.7 \times 79.7$	神戸市立小磯 記念美術館
25	静物(オルゴール人形のある)	1964	油彩	116.0× 91.0	神戸市立小磯 記念美術館

番号	作 品 名	制作年	材質	サイズ	所 蔵
26	浅田氏像	1964	油彩	90.5× 73.0	兵庫県立 近代美術館
27	ざくろ	1970	油彩	38.0× 45.5	兵庫県立 近代美術館
28	船のある静物	1977	油彩	90.0× 91.0	姫路市美術館
29	コートを着た人形	年不詳	油彩	65.4× 52.8	神戸市立小磯 記念美術館
30	リュートとバイオリン	年不詳	油彩	50.0× 72.5	神戸市立小磯 記念美術館
31	リュートを弾く婦人	年不詳	油彩	91.0× 60.5	神戸市立小磯 記念美術館
32	自画像	年不詳	油彩	30.4× 30.0	丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館
番号	(素描) 作 品 名	制作年	· 材 質	サイズ	所 蔵
一—	IF III 12	П) I F <del>* I</del>	- 忉 貝		
1	雑誌を見る二人	1937	鉛筆	40.0× 32.0	神戸市立小磯 記念美術館
2	休息する踊子	1939	鉛筆	37.3× 27.8	神戸市立小磯 記念美術館
3	婦人座像	1943	水彩	63.4× 47.8	神戸市立小磯 記念美術館
4	異人館風景	1945	鉛筆	26.1× 36.6	神戸市立小磯 記念美術館
5	横向きの婦人	1949	木炭	63.5× 48.0	神戸市立小磯 記念美術館
6	服をぬぐ女	1952	コンテ・クレヨン・パステル	63.8× 48.0	神戸市立小磯 記念美術館
7	母子像(B)	1954	水彩・パステル	63.3× 47.6	神戸市立小磯 記念美術館
8	手と足の習作	1955	コンテ	63.5× 48.2	神戸市立小磯 記念美術館
9	木をかつぐ男	1955	サンギーヌ	63.8× 48.0	神戸市立小磯 記念美術館
10	髪をすく女	1955	サンギーヌ	47.3× 64.3	神戸市立小磯 記念美術館
11	膝を付く大原女	1957	サンギーヌ	63.5× 48.1	神戸市立小磯 記念美術館
12	眠る子供	1958	鉛筆	$31.3 \times 47.9$	神戸市立小磯 記念美術館
13	帆船のある風景	1960	水彩	30.0× 39.9	神戸市立小磯 記念美術館
14	教会	1960	コンテ	37.0× 53.8	神戸市立小磯 記念美術館
15	ヴァンス・ホテル・ド・プロヴァンス 中庭	1960	竹ペン	62.5× 49.0	神戸市立小磯 記念美術館

番号	作 品 名	制作年	材 質	サイズ	所 蔵
16	桟橋	1962	ペン	36.5× 46.6	神戸市立小磯 記念美術館
17	舞妓	1965	鉛筆	32.1× 24.1	神戸市立小磯 記念美術館
18	室内風景	1965	ペン	49.9× 64.5	神戸市立小磯 記念美術館
19	横たわる裸婦	1966	水彩・ペン	45.0× 62.9	神戸市立小磯 記念美術館
20	群像(カフェテラス)	1973	パステル・水彩	57.3× 77.5	神戸市立小磯 記念美術館
21	バイオリンを弾く婦人	1973 - 74	パステル	65.1× 50.0	神戸市立小磯 記念美術館
22	赤いマントの外国婦人	1980	パステル	65.1× 49.8	神戸市立小磯 記念美術館
23	ストライプのセーターの外国婦人	1982	パステル	65.2× 50.0	神戸市立小磯 記念美術館
24	花のある室内	1984	パステル	65.0× 50.1	神戸市立小磯 記念美術館
25	バレリーナ	年不詳	パステル	65.3× 50.0	神戸市立小磯 記念美術館
26	花と虫	1963 - 64	エッチング	41.2× 35.2	神戸市立小磯 記念美術館
27	静物	1968-69	エッチング	50.0× 38.5	神戸市立小磯 記念美術館
28	花	年不詳 ア	゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚	44.0× 52.8	神戸市立小磯 記念美術館
29	オレンジ色のドレスの人形	1977	リトグラフ	52.0× 36.0	神戸市立小磯 記念美術館
30	紫のコスチュームの人形	1984	リトグラフ	75.0× 54.0	神戸市立小磯 記念美術館

### 猪熊弦一郎 作品リスト

番号	作 品 名	制作年	材 質	サイズ
1	自画像	1925	油彩・カンヴァス	37.8× 37.8
2	星都市	1980	アクリル・カンヴァス	111.8× 96.6
3	黒の中に住む褐色の世界	1981	アクリル・カンヴァス	$111.5 \times 96.0$
4	宇宙は機械の運動場 No.2	1981	アクリル・カンヴァス	$200.0 \times 250.0$
5	スペース都市	1982	アクリル・カンヴァス	$127.0 \times 96.4$
6	ハイウェイパトロール	1983	アクリル・カンヴァス	$151.0 \times 121.5$
7	出発	1983	アクリル・カンヴァス	$136.0 \times 121.5$
8	星からの手紙 ラブ2	1983	アクリル・カンヴァス	$200.0 \times 250.2$
9	ノーチラス(オーム貝)の感性	1984	アクリル・カンヴァス	$121.5 \times 101.0$
10	五月金曜日	1985	アクリル・カンヴァス	$136.0 \times 122.0$
11	星座の会話	1986	アクリル・カンヴァス	$136.0 \times 122.0$
12	部屋と惑星	1986	アクリル・カンヴァス	$127.2 \times 96.0$
13	黄色の星座	1986	アクリル・カンヴァス	$182.0 \times 152.0$
14	二つの門	1987	アクリル・カンヴァス	$152.0 \times 121.0$
15	顏 15	1988	アクリル・カンヴァス	$135.9 \times 121.1$
16	顔 25	1988	アクリル・カンヴァス	$136.0 \times 121.0$
17	顔 36 (B)	1988	アクリル・カンヴァス	$130.3 \times 97.1$
18	顏 43	1988	アクリル・カンヴァス	$121.4 \times 101.5$
19	顔 10 B	1989	アクリル・カンヴァス	$130.3 \times 97.1$
20	鳥とヴィーナス	1990	アクリル・カンヴァス	$194.0 \times 130.3$
21	裸子1 顔13 鳥2	1991	アクリル・カンヴァス	$127.0 \times 96.2$
22	裸子1 顔40 鳥6	1991	アクリル・カンヴァス	$162.0 \times 131.0$
23	黒鳥の休日	1991	アクリル・カンヴァス	$127.0 \times 92.0$
24	カガシと顔達	1993	アクリル・カンヴァス	$121.0 \times 101.5$
25	夜明けの鳥達	1993	アクリル・カンヴァス	$126.2 \times 90.9$
26	顔・鳥	1993	アクリル・カンヴァス	$96.0 \times 66.0$
27	カガシと鳥達	1993	アクリル・カンヴァス	$110.7 \times 91.0$
28	マスクとスペース	1993	アクリル・カンヴァス	$194.0 \times 162.0$
29	カガシと鳥の対話	1993	アクリル・カンヴァス	$126.2 \times 95.8$
30	ダボとカガシ	1993	アクリル・カンヴァス	$120.8 \times 101.4$
31	鳥達の遊び	1993	アクリル・カンヴァス	$151.9 \times 122.0$
32	顔・鳥・犬	1993	アクリル・カンヴァス	$126.5 \times 95.9$
33	風車と鳥	1993	アクリル・カンヴァス	$137.0 \times 122.0$
34	裸子と鳥	1993	アクリル・カンヴァス	$137.0 \times 121.9$
34	ランドスケープ KF	1973	アクリル・紙	$101.0 \times 75.5$

# 29 アントニ・タピエス

**会 期** 1996年5月12日(日)~6月30日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団

共 催 四国新聞社,西日本放送

協力 Exhibition directed by the Fundació Antoni Tàpies in collaboration with Art Life Ltd.

**巡回先** 1996年8月10日(土)~9月12日(木) 新潟市美術館 1996年9月21日(土)~11月4日(月) 群馬県立近代美術館 1996年11月14日(木)~12月25日(水) キリンアートスペース原宿

アントニ・タピエス (1923-) の20年ぶりに日本で開催された本展は、作家自身とバルセロナのアントニ・タピエス財団の全面的な協力を得て作品選定がなされ1950年代から最近作に至るまでの代表作により構成された。

現代スペインを代表する芸術家タピエスは、カタルーニャ地方バルセロナに生まれた。作品は、初期のシュルレアリスム風の表現から、土や砂を混ぜ合わせ、ぼろ布を貼ったコラージュ、厚塗り、麦わらや紐、引っかき傷を混在させたアンフォルメル芸術の影響を色濃く見せる作品へと移行した。実存主義や東洋思想にも強く感化されたタピエスだが、その作品はフランコ政権下で抑圧された悲劇的歴史をもつカタルーニャ地方の文化的政治的要素を背景とする自由な精神、自発的表現が誕生する場として平面上に顕在している。

今展では欧米に比べ日本ではあまり紹介されることの なかったタピエスの作品34点を通してタピエス自身の精 神の軌跡をたどり、その全貌にふれた。





### 関連企画

### 記念講演会一 [ -

5月12日(日) 14時~

テ - マ 「スペイン現代美術-I カタルーニャ

を中心として

講師 田澤 耕(バルセロナ大学現代語研究所日

本語専任主任講師)

会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 75人

### 記念講演会一Ⅱ

6月9日(日) 14時~

テーマ「スペイン現代美術-Ⅱ タピエ

スの次にくるもの

会 場 丸亀新聞放送会館モトリス7階

聴講者数 80人

入場者数 6,009人

# 30 インサイド・ストーリー 同時代のアフリカ美術

会 期 1996年7月7日(日)~9月1日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団 読売新聞大阪本社,美術館連絡協議会

後 援 外務省、アフリカ協会、西日本放送

協 **賛** 花王株式会社, 国際交流基金

協力 エールフランス

**巡回先** 1995年 9 月23日(土·祝)~11月19日(日)

世田谷美術館

1996年1月20日(土)~3月17日(日)

徳島県立近代美術館

1996年4月6日(土)~5月6日(月·祝)

姫路市立美術館

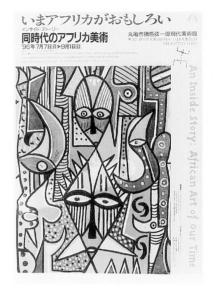
1996年 5 月18日(土) ~ 6 月23日(日)

郡山市立美術館

1996年9月13日(金)~10月27日(日)

岐阜県美術館

アフリカというと主に東アフリカがよく紹介される が、西あるいは中央アフリカにおいても活発な美術活動 が繰り広げられている。本展はこのあまり知られざる西 ・中央アフリカの美術を、平面だけでなく立体も含めて 約140点展観したものであるが、アフリカの美術に深く 関わっている西洋人の存在、視点を浮き彫りにもしたス リリングな展覧会となった。構成は今世紀初頭から現代 までを4つの時期に大きく分けた。プロローグ、フリー ・スクールの時代、伝統とモダニズム、アートを越えて。 作品は民衆の持つエネルギーあふれるものから、アフリ カが抱えてきた過去の歴史的な問題だけでなく、現代の 例えばエイズ問題をも題材にしたものなど、アフリカそ のものを再考させる機会にもなった。





### 関連企画

### 記念講演会

7月7日(日)

14時~

[アフリカ ポレポレ(ゆっくり、のんびり)]

師 平岩道夫(動物写真家)

2階ミュージアム・ホール 場 所

聴講者数 98人

#### コンサート -

7月28日(日)

テーマ 「マンディンカ・コンサート」

出演者 マンディンカ

入場者数 10,624人

### 31 シンディ・シャーマン展

会 期 1996年9月8日(日)~10月13日(日)

会 場 展示室 C

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団,朝日新聞社 瀬戸内海放送

後 援 アメリカ大使館

協 力 日本航空

企画協力 メトロ・ピクチャーズ

巡回先 1996年7月6日(土)~8月18日(日) 滋賀県立近代美術館 1996年10月26日(土)~12月15日(日) 東京都現代美術館

シンディ・シャーマンは、1954年、アメリカ合衆国ニュージャージー州に生まれた。1977年ニューヨークに移り、様々な情景の中に自らの姿を登場させる写真作品を積極的に発表し、現在、80年代以降の美術を語るうえで欠かせない作家として高く評価されている。

シャーマンは70年代の後半に、ヒッチコックやフェリ ーニらの映画のなかで、キャリア・ガールや図書館司書、 ハリウッド女優など、すぐにそれとわかる典型的な女性 に扮装し白黒画面に収めた、「アンタイトルド・フィル ム・スティル」のシリーズで美術界に鮮烈なデビューを 飾った。80年代になると、作品は巨大なカラー写真とな り、全てスタジオ内で撮影されるようになる。スタジオ のスクリーンに映し出された架空の情景をバックに様々 なタイプの女性を演じた「リア・スクリーン・プロジェ クション|シリーズ、背後に男性の眼差しを感じさせる セクシーな横たわる女性を横長の画面に配した「センタ ーフィールド | シリーズ、あるいはデザイナーズ・ブラ ンドから制作を依頼された「ファッション」のシリーズ などを経て、80年代後半に入ると、ホラー映画を連想さ せるグロテスクな場面に自分の身体を挿入させる「ディ ザスター シリーズや、ラファエロやカラヴァッジオら





の名画のなかの主人公に変装した「ヒストリー・ポートレイト」シリーズなどの話題作を次々に発表し、一躍時代の花形として脚光を浴びた。また92年以降は性の問題を手掛けた「セックス・ピクチャー」シリーズを展開し、常に時代の最前線で活躍している。彼女の作品は、写真というメディアの可能性を広げ、オリジナルに対するコピーの創造性を示した点で、現代美術の最新モードを代表するものであり、ポスト・モダンと称される混沌とした現代の文化や社会の状況と密接な関係にあるといえるであろう。

本展では、初期から最新作までの約70点の代表作により、シンディ・シャーマンの仕事を紹介した。

入場者数 5,573人

### 32 森村泰昌展

### 一「女優シリーズ」より一

**会 期** 1996年9月8日(日)~10月13日(日)

会 場 展示室B

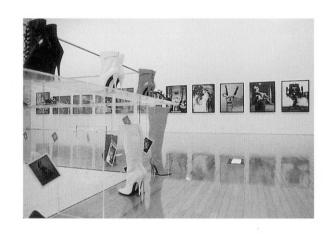
主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団

森村泰昌は京都市立芸術大学卒業後、1985年にゴッホの自画像の複製とセルフポートレイトを合成した写真作品を発表し、注目を集める。その後も美術史、写真史上に名高い作品からマドンナやマイケル・ジャクソンに至るまで、自ら扮装し、またコンピューターを用いてオリジナル作品とそこに登場する人物、あるいは顔の部分だけを巧みに合成するという手法で作品を発表してきた。これらの作品は森村にとって「セルフ・ポートレイト(自写像)」でもある。森村が試みているのは、オリジナルを模倣して制作するのではなく、過去の価値観に対する森村自身による現代の解釈とも言える。

「女優シリーズ」では、森村が我々の生きている20世紀という時代を「映画」という現象を通して検証し、21世紀を「いかに生きるか」という指針を見出した。1996年横浜美術館で開催された「美に至る病-女優になった私」展への出品作と新作、32点と作品の撮影に使用された靴82点を展示。常に「私」が何者であるかという森村の問いかけを提示する展示を行なった。

「シンディ・シャーマン展」と同時期の開催という点 でも注目を浴びた。





### 関連企画

森村泰昌によるトークと映像発表会・

9月8日(日) 14時~

テーマ「しゃべるわたし、うごくわたし

丸亀編」

講 師 森村泰昌(美術家)

会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 220人

入場者数 5,573人

### 33 リチャード・マイヤーとフランク・ステラ

### 一建築と絵画の接点一

**அ** 1996年10月26日(土)~1997年1月5日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団

後 援 駐日アメリカ合衆国大使館,四国新聞社 NHK高松放送局,西日本放送,瀬戸内海放送 山陽放送,岡山放送,テレビせとうち,

(社)日本建築学会四国支部

(社)日本建築家協会四国支部

(社)香川県建築士会

企画協力 アキラ イケダ コーポレーション

助 成 アサヒビール芸術文化財団

**巡回先** 1996年2月2日(金)~4月7日(日)

愛知県美術館

1996年 5 月25日(土)~7 月14日(日)

広島市現代美術館

1997年7月11日(金)~8月17日(日)

熊本県立美術館

モダニズム建築の正統的継承者とみなされている建築家リチャード・マイヤー(1934ー)は、幾何学的な形態と建物の複雑性による空間を作りあげてきた。ル・コルビジェからの影響は、白を基調とした明快なフォルムの中に現れ、マイヤー独自の哲学は光と空間によって表現されている。一方、絵画空間並びにそこに派生するイリュージョンの問題に取り組み、さらにそれを超越した現実空間の構築に挑んでいる画家フランク・ステラ(1936ー)は、絵画から立体的な絵画レリーフ、立体作品、コラージュそして彫刻へと変貌を遂げた。

展覧会では、マイヤーの設計した美術館建築を建築模型や設計プランそして写真を使い紹介し、ステラに関しては1958年の初期の作品から95年の最新作品までを展示。またマイヤーが設計を進めているアリゾナ州の連邦裁判所に、共同で複合施設への新しいプランの提案も行なった。二人の多面的な活動を86点で紹介するとともに、「建築」と「絵画」がどのように関わり合うのか、空間が「建築」と「絵画」の力によって、どのようにして変





貌するのかを検証し、21世紀の空間を創造する手が かりを得ようとした。

### 関連企画

· 記念講演会 *-*

10月27日(日) 13時30分~

テーマ 「建築空間と芸術作品」

師 福田晴虔(九州大学教授 工学博士)

旧古明及(九州大子教校 工子等工)

山本忠司(山本忠司建築綜合研究室) 2階ミュージアムホール

聴講者数 96人

入場者数 6,495人

### 34 佐藤忠良と猪熊弦一郎展

**会 期** 1997年1月18日(土)~3月30日(日)

**主 催** 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団

彫刻家佐藤忠良は、東京美術学校に在学中から国画会 展に出品し受賞を重ねていたが、卒業した1939(昭和14) 年、猪熊弦一郎、小磯良平、脇田和ら9名が1936(昭和 11)年に創立した「新制作派協会」の彫刻部創立に、本 郷新、柳原義達、舟越保武ら6名と共に参加した。

しかし、1944(昭和19)年兵役に召集されて制作活動は 一時中断、3年間のシベリアでの抑留生活を経て1948(昭和23)年に帰国、この年から新制作展を主な発表の場と して活動を再開し、今も精力的に制作を続けている。

佐藤忠良は、ロダンやマイヨールなどのフランス近代 彫刻の影響を受け彫刻の道を歩み始めるが、「群馬の人」 に代表されるように、日本の風土に根ざした強い生命力 と精神性を秘めた作品や、「帽子・夏」などのモダンな 女性像や、無邪気な子供の作品に認められるあたたかな 人間性を強く感じさせる作品を戦後一貫して制作し、日 本国内のみならずフランス国立ロダン美術館での個展を はじめ、ニューヨーク、ロンドンにおいても多くの支持 を得ている。

本展では、「母の顔」(1942)から近作の「脇田さん」 (1993—94)までの彫刻作品52点と、デッサン30点を、猪 熊弦一郎が創造した光に溢れた空間に展示し、佐藤作品 の魅力を紹介した。

制作物 図録『佐藤忠良展』





### 関連企画

### - 記念対談 -

2月23日(日) 13時30分~

テーマ「自然に学ぶ」出演者 佐藤忠良(彫刻家)

山根基世(NHKチーフ・アナウンサー)

会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 779人

入場者数 7,062人

### 佐藤忠良 作品リスト

〈彫刻〉

番号	作品名	制作年	材質	サイズ	所蔵
1	母の顔	1942	ブロンズ	33.0× 17.5× 22.5	作家蔵
2	オリエ	1949	ブロンズ	$27.5 \times 16.0 \times 20.5$	作家蔵
3	たつろう	1950	ブロンズ	$26.0 \times 17.5 \times 20.0$	宮城県美術館
4	群馬の人	1952	ブロンズ	$29.5 \times 19.0 \times 24.0$	作家蔵
5	はだか	1954	ブロンズ	$93.5 \times 27.0 \times 28.0$	作家蔵
6	水	1956	ブロンズ	$25.0 \times 19.0 \times 21.5$	作家蔵
7	土	1956	ブロンズ	$20.0 \times 24.0 \times 22.5$	作家蔵
8	常磐の大工	1956	ブロンズ	$22.5 \times 16.0 \times 24.5$	作家蔵
9	足なげる女	1957	ブロンズ	$94.5 \times 74.0 \times 108.0$	作家蔵
10	建築家	1957	ブロンズ	$33.8 \times 18.5 \times 23.0$	作家蔵
11	エイ	1959	ブロンズ	$26.5 \times 19.5 \times 24.0$	作家蔵
12	魚商の女	1960	ブロンズ	$26.5 \times 16.5 \times 26.0$	作家蔵
13	冬の子供	1965	ブロンズ	$107.5 \times 32.5 \times 26.0$	作家蔵
14	演劇生	1968	ブロンズ	$42.0 \times 27.0 \times 24.5$	作家蔵
15	ボタン (大)	1967 - 69	ブロンズ	$125.5 \times 40.5 \times 35.5$	宮城県美術館
16	神農	1969	ブロンズ	$62.0 \times 18.0 \times 16.5$	作家蔵
17	ジーパン	1970	ブロンズ	$111.5 \times 42.5 \times 33.5$	作家蔵
18	ブレザー	1970	ブロンズ	$36.0 \times 15.0 \times 9.5$	作家蔵
19	指	1970	ブロンズ	$47.0 \times 18.0 \times 37.0$	作家蔵
20	チコ	1970	ブロンズ	$44.5 \times 17.5 \times 22.0$	宮城県美術館
21	若い女	1971	ブロンズ	$173.0 \times 98.0 \times 58.0$	作家蔵
22	ネグリジェ	1971	ブロンズ	$42.0 \times 12.5 \times 16.0$	作家蔵
23	帽子・夏	1972	ブロンズ	$105.0 \times 59.0 \times 42.5$	作家蔵
24	スイス帽の未菜	1972	ブロンズ	$15.0 \times 12.0 \times 15.0$	作家蔵
25	円い椅子	1973	ブロンズ	$59.5 \times 64.5 \times 96.5$	作家蔵
26	長い椅子	1973	ブロンズ	$48.0 \times 136.0 \times 46.0$	作家蔵
27	空よ	1973	ブロンズ	$23.0 \times 66.0 \times 27.5$	作家蔵
28	帽子・立像	1974	ブロンズ	$143.0 \times 61.0 \times 37.0$	作家蔵
29	若い裸	1974	ブロンズ	$151.5 \times 62.0 \times 47.0$	作家蔵
30	男もの	1974	ブロンズ	$45.5 \times 14.5 \times 11.0$	作家蔵
31	男の児	1974	ブロンズ	$46.0 \times 22.0 \times 23.0$	宮城県美術館
32	幼女	1974	ブロンズ	$45.5 \times 20.5 \times 9.5$	宮城県美術館
33	女座像	1974 - 75	ブロンズ	$120.0 \times 57.5 \times 48.5$	宮城県美術館
34	翳 (かげ)	1975	ブロンズ	$85.0 \times 51.0 \times 44.0$	作家蔵
35	カンカン帽	1975	ブロンズ	$51.5 \times 40.0 \times 32.0$	作家蔵
36	トルソ	1977	ブロンズ	$135.0 \times 39.0 \times 41.0$	作家蔵
37	K	1978	ブロンズ	$31.0 \times 15.5 \times 23.5$	作家蔵
38	記録をつくった男の顔	1978	ブロンズ	$31.5 \times 19.0 \times 24.0$	作家蔵
39	ミナー年生	1979	ブロンズ	$26.5 \times 15.5 \times 18.0$	作家蔵
40	フードの竜	1980	ブロンズ	$120.5 \times 32.5 \times 39.0$	宮城県美術館

番号	作 品 名	制作年	材 質	+	ナイズ	所蔵
41	五年生	1980	ブロンズ	29.0×	16.5× 19	9.5 作家蔵
42	少年の像	1981	ブロンズ	152.0 $\times$	61.0× 4	1.0 作家蔵
43	ラップ帽	1982	ブロンズ	48.5×	18.5× 25	5.0 作家蔵
44	モトコ '83	1983	ブロンズ	30.0×	17.0× 25	5.5 作家蔵
45	中学三年生・竜	1984	ブロンズ	$25.5 \times$	17.0× 2	1.5 作家蔵
46	あぐら	1985	ブロンズ	57.0×	57.5× 49	9.5 作家蔵
47	朔先生	1986	ブロンズ	$33.5 \times$	$22.0 \times 23$	3.5 作家蔵
48	アニタ	1987	ブロンズ	$38.0 \times$	$18.5 \times 22$	2.5 作家蔵
49	鋳物職	1992	ブロンズ	$33.0 \times$	22.0× 25	5.0 作家蔵
50	ブラウス	1993	ブロンズ	$170.0\times$	68.0× 50	0.0 作家蔵
51	脇田さん	1993 - 94	ブロンズ	$32.0 \times$	$25.0 \times 23$	3.0 作家蔵
52	響	1994	ブロンズ	167.0×	76.0× 62	2.0 作家蔵
	〈素描〉					
1	下町工場	1956	鉛筆	$22.0 \times$	26.9	作家蔵
2	横たわる女	1956頃	コンテ	$24.6 \times$	35.8	作家蔵
3	身体を折った女	1957	墨	$24.5 \times$	35.2	作家蔵
4	平壊の朝	1958	鉛筆	$24.5 \times$	35.7	作家蔵
5	湘江	1958	コンテ	$19.1 \times$	29.3	作家蔵
6	座婦	1960	鉛筆	$36.1 \times$	25.1	作家蔵
7	立つ裸婦	1960	コンテ	$35.9 \times$	26.6	作家蔵
8	後手の裸婦	1960頃	コンテ	$35.7 \times$	24.5	作家蔵
9	座婦	1960頃	インク	$35.6 \times$	24.6	作家蔵
10	休む裸婦	1960頃	インク	$35.8 \times$	26.3	作家蔵
11	太海	1961	コンテ	$24.0 \times$	33.2	作家蔵
12	横座り	1970頃	コンテ	$35.6 \times$	24.6	作家蔵
13	伏せた女	1970頃	コンテ	$35.7 \times$	24.6	作家蔵
14	休むモデル	1970頃	コンテ	$35.7 \times$	24.6	作家蔵
15	腰を下して	1970頃	インク	$24.6 \times$	33.0	作家蔵
16	手を前の裸婦	1970頃	鉛筆·水彩	$35.6 \times$	24.8	作家蔵
17	脚組んだ女	1970頃	鉛筆	$35.7 \times$	24.6	作家蔵
18	メキシコシティ	1973	鉛筆·水彩	$23.5 \times$	33.2	作家蔵
19	アトリエのチコ	1975	鉛筆	$27.2 \times$	38.0	作家蔵
20	ボケの実	1975	鉛筆·水彩	$12.5 \times$	29.0	作家蔵
21	本	1976	鉛筆·水彩	$30.0 \times$	36.7	作家蔵
22	ミナ	1978	鉛筆	$25.0 \times$	35.5	作家蔵
23	コスチュームの女	1978	鉛筆	$42.4 \times$	30.0	作家蔵
24	うづくまり	1980	鉛筆	$33.2 \times$	23.6	作家蔵
25	帽子	1982	木炭·鉛筆	38.0×	27.0	作家蔵
26	伏せる女	1985	コンテ	$24.0 \times$	32.0	作家蔵
27	冬の静物	1989	鉛筆	$38.0 \times$	26.9	作家蔵

所蔵
F家蔵
F家蔵
F家蔵
I

### 猪熊弦一郎 作品リスト

番号	作 品 名	制作年	材 質	サイズ
1	自画像	1921	油彩・カンヴァス	53.5× 45.5
2	少年	1922	油彩・カンヴァス	$116.6 \times 91.0$
3	雪の道	1923	油彩·板	$45.5 \times 45.6$
4	自画像	1924	油彩・カンヴァス	$41.1 \times 41.5$
5	母の像	1924	油彩・カンヴァス	$72.8 \times 60.8$
6	眠れる女	1927	油彩・カンヴァス	$116.8 \times 90.9$
7	天主堂 (長崎)	1931	油彩・カンヴァス	$53.0 \times 45.5$
8	灰色の服	1933	油彩・カンヴァス	$145.5 \times 112.5$
9	巴里のおばあさん	1938	油彩・カンヴァス	$72.0 \times 60.0$
10	フラミンゴ楽園	1938	油彩・カンヴァス	$80.5 \times 64.5$
11	セロを弾く男	1939	油彩・カンヴァス	$60.8 \times 45.7$
12	パイプと男	1939	油彩・カンヴァス	$60.6 \times 50.0$
13	レゼジーの駅	1939	油彩・カンヴァス	$48.6 \times 59.8$
14	ヴァイオリンを持てる女	1940	油彩・カンヴァス	$80.6 \times 60.4$
15	マドモアゼルM	1940	油彩・カンヴァス	$81.2 \times 65.4$
16	ダムのある風景	1944	油彩・カンヴァス	$60.5 \times 72.7$
17	黄色いスカートの婦人	1946	油彩・カンヴァス	$80.5 \times 64.5$
18	猫と文子	1949	油彩・カンヴァス	$79.0 \times 64.5$
19	二人の子供	1950	油彩・カンヴァス	$73.0 \times 61.0$
20	猫と子供	1951	油彩・カンヴァス	$92.0 \times 65.5$
21	猫と食卓	1952	油彩・カンヴァス	$73.0 \times 61.0$
22	黄色の星座	1986	アクリル・カンヴァス	$182.0 \times 152.0$
23	通信衛星	1986	アクリル・カンヴァス	$194.0 \times 259.0$
24	二つの門	1987	アクリル・カンヴァス	$152.0 \times 121.0$
25	ポートレイトの会話	1988	アクリル・カンヴァス	$194.0 \times 130.0$
26	二つのヴィーナス	1989	アクリル・カンヴァス	$194.0 \times 130.3$
27	三つの言葉	1989	アクリル・カンヴァス	$194.0 \times 258.8$
28	鳥たちの日記帳	1990	アクリル・カンヴァス	$193.8 \times 259.0$
29	手の残した言葉	1991	アクリル・カンヴァス	$389.0 \times 259.0$
30	顔達の祭日	1992	アクリル・カンヴァス	$194.0 \times 259.0$
31	顔たちの祭典	1992	アクリル・カンヴァス	$194.0 \times 194.0$
32	鳥 犬 顔 隣人	1992	アクリル・カンヴァス	$194.0 \times 130.0$
33	ダボとカガシ	1993	アクリル・カンヴァス	$120.8 \times 101.4$
34	飛ぶ日のよろこび	1993	アクリル・カンヴァス	$137.3 \times 122.1$
35	マスクとスペース	1993	アクリル・カンヴァス	$194.0 \times 162.0$

## **35** ジム・ダイン展 —身体の比喩

**会 期** 1997年4月12日(土)~6月8日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団

共 催 四国新聞社,西日本放送

後 援 アメリカ大使館

協 力 日本航空

**巡回先** 1996年 9 月14日(土)~10月13日(日)

宮城県美術館

1996年11月2日(土)~1997年1月12日(日)

芸術の森美術館

1997年7月25日(金)~8月24日(日)

岐阜県美術館



アメリカのポップ・アーティストと見なされてきたジム・ダインだが、本展ではダイン自身がそれを否定しているように、いわゆるポップ・アートではなく、作家の個人的な感情をむしろ表出する作品を通して、一貫して人間、身体をテーマにしたダイン芸術を紹介するものである。

ダインはまずハプニングでニューヨークのアートシーンで有名になり、次に彼の紋章になったハートや少年の頃から親しんだ工具類などを画面にとり入れた作品で人気を得る。だがその後、伝統的なドローイングにあえて戻ることにより、彼の芸術はさらなる展開を見る。

本展はこの軌跡を彼独特の比喩という手法によってた どろうとするものである。作品は神秘的ですらあるバス ローブをモティーフにしたものの他、描いた過程をその

### 関連企画

#### - 記念講演会 -

5月11日(日) 13時30分~

テーマ「ジム・ダインーありふれたものの

凄み

会場 2階ミュージアムホール

聴講者数 75人



まま残したデッサン類など見どころが多かった。

### トーク・上映会 **一**

4月12日(土)、19日(土)、26日(土)

5月3日(土・祝)、10日(土)、17日(土)、31日(土)

6月7日(土) 14時~

上映作品 「ジム・ダインー壁面上の自画像」

会 場 2階ミュージアムホール

入場者数 97人(8日間合計)

入場者数 5,555人

# **36** イサム・ノグチと三宅一生 アリゾナ

**会 期** 1997年6月22日(日)~8月31日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団,朝日新聞社

後 援 NHK高松放送局,西日本放送,瀬戸内海放送 山陽放送,岡山放送,テレビせとうち

協力 株式会社イッセイミヤケ,株式会社オゼキ

協 賛 株式会社三越

彫刻という分野に留まらず、「地球を彫刻」するという発想に基づく環境芸術とも言うべき作品を制作した世界的な芸術家イサム・ノグチ(1904—1988)と、古代から続く「一枚の布」という発想から発展した作品、特に1988年に制作が開始されたプリーツシリーズでは発明とも呼べる機能と美を兼ね備えた作品で独自の世界を見せる三宅一生(1938—)による本展覧会は、ノグチを尊敬する三宅自らが展示構成も行った。

全く異なる素材を用いた2人だが、自然に対する畏敬の念や時間系への憧憬、作品表現の根幹に流れる深い精神性には相通じるものがある。ノグチのブロンズ彫刻や照明彫刻『あかり』、札幌モエレ沼公園の遊具などと、三宅のプリーツコレクションを中心に最新作までを展示するとともに、猪熊弦一郎がアリゾナ旅行での印象を描いた『アリゾナとカチナドール』の1部を拡大展示。タイトルの2人に猪熊も加え3人展ともよべる内容となった。子どもから大人までが気軽に参加できるものを目指し、彫刻とファッションがその領域を越えて美術館全体で融合する中で2人の創造した造形美術を検証、国内外から高い反響を得た。

制作物 図録『イサム・ノグチと三宅一生 アリゾナ』



### 関連企画

### · 記念講演会 -

8月3日(日) 13時30分~

テ ー マ 「見る、触る、食べる、着る」

講 師 森村泰昌(美術家)

会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 134人

### 講演会(ギャラリートーク) -

8月24日(日) 13時30分~

講 師 植松由佳(当館学芸員)

聴講者数 75人

### ビデオ上映会 **-**

6月29日(日)

7月6日(日), 13日(日), 20日(日), 27日(日)

8月17日(日), 31日(日) 13時30分~

上映作品 「イサム・ノグチ地球を彫刻した男」

ISSEY MIYAKE MOVES

聴講者数 368人(7日間合計)

入場者数 27,184人



photo by Yasuaki Yoshinaga

イサム・ノグチ作品と ISSEY MIYAKE 作品による インスタレーション

### 夏休み特別企画ワークショップ

レクチャー -

7月30日(水) 10時30分~11時30分

講師 津村耕佑(ファッションデザイナー)

場 所 2階ミュージアムホール

造形スタジオ

参加者数 136人

### - ワークショップ **-**

7月31日(木)~8月3日(日) 9時30分~12時

テーマ「あつまれ!!ちびっこデザイナー

-未来につながる服をつくろう-」

講 師 7月31日(木) 津村耕佑

(ファッションデ ザイナー)

8月1日(金) 松村 光

(三宅デザイン事務所)

8月2日(土) 藤原敏雄

(三宅デザイン事務所)

8月3日(日) 吉川真由

(三宅デザイン事務所)

参加者数 139人(4日間合計)



photo by Yasuaki Yoshinaga



photo by Yasuaki Yoshinaga

ファッションショウ -

8月10日(日) 15時~

タイトル 「MIMOCA KIDS COLLECTION」

場 所 1階ゲートプラザ

スタッフ

演出 津村耕佑(ファッションデザイナー)

田村こうじ

進行 田村こうじ

松村 光(三宅デザイン事務所)

市川栄治(三宅デザイン事務所)

指導 三木砂織(モデル)

ヘア・メイク

土橋大輔(資生堂ビューティークリエーション研究所)

他 4 名(資生堂香川支社)

音楽 高松ジュニアフィルハーモニーオ

ーケストラ

参加者数 136人

# 37 ロバート・メイプルソープ展

**期** 1997年9月6日(土)~10月19日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団 ロバート・メイプルソープ財団

(財) N H K サービスセンター

後 援 外務省,アメリカ大使館 NHK高松放送局

協 力 日本航空

企画及び構成 株式会社アートライフ

**巡 回 先** 1996年12月5日~1997年1月19日

三越美術館・新宿 1997年3月20日~4月1日 高島屋グランドホール・大阪 1997年4月19日~6月1日 福島県立美術館 1997年6月7日~7月6日 北海道立旭川美術館 1997年7月31日~8月24日

1989年の彼の死が昨日のことのように思われるほど、メイプルソープの作品は新鮮だった。

そごう美術館・横浜

ロバート・メイプルソープの完璧ともいえるライティングと構図による写真は、この上なく美しく、時には妖艶で、時には哀しい。それは彼自身の生き方が作品に重なって見えるせいもあるだろう。本展はメイプルソープの代表的な作品を展示し全貌を紹介するものであったが、作品は彼がエイズで死ぬ前年に友人たちと設立したエイズ撲滅と写真芸術の発展のために設立したロバート・メイプルソープ財団の所蔵によるものである。メイプルソープの展覧会は1990年に一度開催されたが、本州以外には巡回されなかったこともありファンには特に待望の開催となった。構成は4つのテーマ、ポートレート、ヌード、静物、セックスに分けられた。それぞれの作品は強いメッセージを発し、多くの鑑賞者を魅了した。





#### 関連企画

### - 講演会 -

9月6日(土) 14時~

テ - マ 「アートを廻る考察:愛、セック ス、そして私たち」

講師福のり子(グッゲンハイム美術館非常勤講

師,インディペンデント・キュレーター)

会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 187人

入場者数 7,147人

### 38 丸亀城築城四百年記念 丸亀藩京極家名宝野々村仁清展

- 会 期 1997年10月25日(土)~11月3日(月·祝)
- 主 催 丸亀市, 丸亀市教育委員会 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団
- 共 催 日本経済新聞社,四国新聞社,NHK高松放送局
- 後 援 香川県,香川県教育委員会,西日本放送 瀬戸内海放送,山陽放送,岡山放送 テレビせとうち
- 協 賛 四国化成

第12回国民文化祭・かがわ'97協賛事業

野々村仁清は丹波国桑田郡野々村(現、京都府美山町) の出身で、本名を清右衛門という。江戸時代初期に瀬戸 で修行を積み、京都洛西の御室仁和寺の門前に御室窯を 開いた。「仁清」というのは仁和寺の「仁」と清右衛門 の「清」を合わせた雅号で、仁和寺宮から使用を許可さ れたものである。また「播磨大掾」という国司の位もも らっている。陶工にこの様な名前や位が与えられるのは 異例のことで、このことからも仁清の特出した技術と天 賦の才覚をうかがい知ることができる。仁清は色絵陶器 の完成者とも京焼の大成者ともいわれているが、仁和寺 宮を中心とする貴族や大名らと交流を深め、それらの 人々の需めに応じて華麗で典雅な作品を数多く作った。 その作品は巧みな轆轤の技術と華麗な上絵付けに支えら れた茶壺、水指、茶碗、香炉、香合などの茶道具で占め られているが、代表作といわれるものは色絵の茶壺であ る。その色絵茶壺の名品を数多く収集していたのが丸亀 藩京極家であった。

仁清と丸亀藩京極家との関係については明らかでないが、仁清の名品の多くは丸亀二代藩主京極高豊侯の時代に集められたものとみられている。高豊侯は詩歌や絵を趣味とし、自らも絵筆をとるなど文人であり、また茶人でもあった。六万余石の小藩がこれほどの名品を数多く入手できたのは、ときの藩主の文化的な素養と卓越した





手腕によるものといえるだろう。

本展では京極家が所蔵していたといわれる国宝、 重要文化財の色絵茶壺と水指の秀作、あわせて七点 を展観した。特に国宝の色絵藤花文茶壺は日本陶磁 器の最高傑作といわれている絶品で、これらの名品 が一堂に揃うのは京極家の手を離れて初めてのこと であり、記念すべき出来事であった。

制作物 図録『丸亀城築城四百年記念 丸亀藩京極家名宝 野々村仁清展』

### 関連企画

### - 記念講演会 -

10月25日(土) 13時30分~

テーマ 「偉大な陶工の生涯と作品」

会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 240人

### - 記念講演会 ----

10月26日(日) 13時30分~

テーマ 「丸亀藩京極家と仁清」

講 師 岡佳子(大手前女子大学講師) 会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 276人

### - 記念講演会 ----

10月27日(月) 13時30分~

テーマ「京極家物語」

講 師 直井武久(歴史家, 丸亀市文化財保護審議会長) 会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 194人

入場者数 33,035人

### 作品リスト

番号	指定	作 品 名	高さ(cm)	口径(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	員数(口)	所蔵
1	国宝	色絵藤花文茶壺	28.8	10.1	27.7	10.5	1	MOA美術館
2	重要文化財	色絵月梅図茶壺	30.0	10.6	27.1	11.4	1	東京国立博物館
3	重要文化財	色絵吉野山図茶壺	28.6	10.5	27.1	11.9	1	静嘉堂文庫美術館
4	重要文化財	色絵吉野山図茶壺	35.7	12.2	31.8	12.9	1	福岡市美術館
5	重要文化財	色絵若松図茶壺	26.3	10.5	21.7	9.6	1	文化庁
6	重要文化財	色絵山寺図茶壺	21.8	9.3	17.1	10.1	1	根津美術館
7	重要文化財	色絵牡丹図水指	14.0	9.7	15.5	9.9	1	東京国立博物館
8		京極家御道具帳						丸亀市立資料館

### **39** いす・100のかたち

### ヴィトラ・デザイン・ミュージアムの名品

会 期 1997年11月8日(土)~12月14日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団,読売新聞大阪本社 西日本放送,美術館連絡協議会

後 援 外務省,文化庁,ドイツ連邦共和国総領事館

協 **賛** 花王株式会社,東洋シャッター株式会社 株式会社インター・オフィス

巡回先 1997年8月9日(土)~9月15日(月・祝) 茨城県つくば美術館 1997年9月27日(土)~10月26日(日) 北海道立旭川美術館 1997年12月19日(金)~1998年2月3日(火) 国立国際美術館 1998年2月10日(火)~3月29日(日) 豊田市美術館 1998年4月4日(土)~5月5日(火・祝) 埼玉県立近代美術館

ドイツ南西端のヴァイル・アム・ラインに位置するヴィトラ・デザイン・ミュージアムは、世界有数の家具コレクションを誇る美術館としてフランク・〇・ゲーリーによる設計で1989年設立された。1800点を越えるコレクションは、1820年以降、現代までの工業生産家具を対象にしており、建築家及びデザイナーによる椅子がそれらの大部分を占めている。収集にあたっては、20世紀モダニズム様式を大きな柱としており、19世紀の家具もこの視点に沿って、次代の様式への萌芽ないし準備の段階のものばかりが選ばれている。

本展覧会はヴィトラ・デザイン・ミュージアムの開館 5 周年を記念して企画され、1995年に同美術館で開催された"100Masterpieces"の世界巡回である。コレクションの中から、椅子を中心とするエポック・メーキングな作品を精選し、「テクノロジー」「コンストラクション」「リダクション」「オーガニック・デザイン」「デコレーション」「マニフェスト」の6つの側面に分けて、デザインにおけるモダニズムの生成と展開を探ろうとした。





入場者数 7,151人

# 40 猪熊弦一郎の宇宙 ―顔曼陀羅―

会 期 1997年12月20日(土)~1998年3月1日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団

猪熊の作品に「顔」が登場するのは、1988年のことである。その年の正月、長年のモデルであり彼の最も良き理解者であった最愛の伴侶、文子夫人を失った。身の置き所のない悲しみと説明のつかない空虚を昇華するために何かを描かずにはいられなかったという猪熊は、スケッチブックに向かった。出てきたのは「裸婦」と「顔」であった。妻の顔がいつかでてくるのではないかと祈りにも似た気持ちで描いたスケッチブックは、いつしかたくさんの「顔」で埋め尽くされていた。猪熊にとって抽象、具象というカテゴリーはここではもはや存在していなかった。画家の関心は次第に「顔」の持つ形態としての面白さに向かっていったのである。本展では、紙、カンヴァス、発泡スチロールなど精力的に制作された「顔」の作品70点を展示した。





### 関連企画

### - ビデオ上映会 -

12月21日(日)

1月4日(日), 11日(日), 18日(日)

2月1日(日), 8日(日), 22日(日)

3月1日(日) 13時~

上映作品 「フェイセス」

会 場 2階ミュージアムホール

入場者数 82人(8日間合計)

入場者数 3,978人

作品リスト

番号	作 品 名	制作年	材 質	サイズ
1	顔 11	1988	アクリル・カンヴァス	126.9× 91.0
2	顔 12	1988	アクリル・カンヴァス	$96.5 \times 66.0$
3	顔 14	1988	アクリル・カンヴァス	$127.0 \times 96.5$
4	顏 15	1988	アクリル・カンヴァス	$101.6 \times 96.6$
5	顔 15	1988	アクリル・カンヴァス	$135.9 \times 121.1$
6	顔 17	1988	アクリル・カンヴァス	$127.0 \times 96.5$
7	顏 19	1988	アクリル・カンヴァス	$121.4 \times 101.6$
8	顏 25	1988	アクリル・カンヴァス	$136.0 \times 121.0$
9	顏 35	1988	アクリル・カンヴァス	$121.5 \times 101.5$
10	顔 36 (B)	1988	アクリル・カンヴァス	$130.3 \times 97.1$
11	顏 40	1988	アクリル・カンヴァス	$136.0 \times 121.0$
12	顔 43	1988	アクリル・カンヴァス	$121.4 \times 101.5$
13	顔 47	1988	アクリル・カンヴァス	$121.6 \times 101.5$
14	顔 10B	1989	アクリル・カンヴァス	$130.3 \times 97.1$
15	顔 20A	1989	アクリル・カンヴァス	$127.0 \times 96.3$
16	顔 22	1989	アクリル・カンヴァス	$121.2 \times 101.5$
17	顏 31	1989	アクリル・カンヴァス	$130.4 \times 97.2$
18	顏 31	1989	アクリル・カンヴァス	$194.0 \times 194.0$
19	顔 35	1989	アクリル・カンヴァス	$136.0 \times 121.3$
20	顔 43 B	1989	アクリル、クレパス・カンヴァス	116.7× 91.0
21	顏 71	1989	アクリル・カンヴァス	$135.9 \times 121.4$
22	顔 80	1989	アクリル・カンヴァス	$194.0 \times 194.0$
23	顔 80	1989	アクリル・カンヴァス	$194.0 \times 194.0$
24	9裸婦 15顔 2鳥	1990	アクリル・カンヴァス	$130.5 \times 97.1$
25	夜と顔	1990	アクリル・カンヴァス	$121.3 \times 101.0$
26	鳥5 顔13	1990	アクリル・カンヴァス	$121.5 \times 101.0$
27	裸婦達と屋根の上の鳥	1990	アクリル・カンヴァス	$136.0 \times 121.5$
28	靴と鳥	1990	アクリル・カンヴァス	$130.5 \times 97.3$
29	ロボット 顔 鳥	1990	アクリル・カンヴァス	$96.0 \times 110.8$
30	顔 犬 鳥	1991	アクリル・カンヴァス	$194.0 \times 259.0$
31	手の残した言葉	1991	アクリル・カンヴァス	$389.0 \times 259.0$
32	ドラマチック ステージ	1991	アクリル・カンヴァス	$96.0 \times 111.0$
33	顔 眼	1991	アクリル・カンヴァス	$91.2 \times 73.0$
34	顏2 猫2 鳥8	1991	アクリル・カンヴァス	91.0× 73.0
35	化石時代 92	1992	アクリル・カンヴァス	110.8× 95.8
36	顔達の祭日	1992	アクリル・カンヴァス	$194.0 \times 259.0$
37	鳥とカイト	1992	アクリル・カンヴァス	$162.2 \times 130.3$
38	顔たちの祭典	1992	アクリル・カンヴァス	$194.0 \times 194.0$
39	或る晴れた一日	1992	アクリル・カンヴァス	$136.0 \times 122.0$
40	裸子3 顔24 馬8	1992	アクリル・カンヴァス	$152.0 \times 122.0$

番号	作 品 名	制作年	材 質	サイズ
41	理想プロジェクト	1992	アクリル・カンヴァス	121.0×101.5
42	廣い宇宙空間に顔が存在す	る 1992	アクリル、コラージュ・カンヴァス	$121.5 \times 100.8$
43	緑の中の美しき顔	1992	アクリル・カンヴァス	$110.0 \times 96.0$
44	プロジェクトチーム	1992	アクリル・カンヴァス	$135.6 \times 121.8$
45	真昼のカーニヴァル	1992	アクリル・カンヴァス	$121.0 \times 101.5$
46	鳥達の遊び	1993	アクリル・カンヴァス	$151.9 \times 122.0$
47	カガシと鳥の対話	1993	アクリル・カンヴァス	$126.2 \times 95.8$
48	飛ぶ日のよろこび	1993	アクリル・カンヴァス	$137.3 \times 122.1$
49	カガシと鳥達	1993	アクリル・カンヴァス	$110.7 \times 91.0$
50	カガシの夢	1993	アクリル・カンヴァス	$121.0 \times 101.5$
51	カガシと顔達	1993	アクリル・カンヴァス	$121.0 \times 101.5$
52	顔・鳥	1993	アクリル・カンヴァス	$96.0 \times 66.0$
53	顔 10C	1988	アクリル・紙	$58.3 \times 44.4$
54	顏 16	1988	アクリル・紙	$76.0 \times 56.5$
55	顔 17	1988	アクリル・紙	$58.5 \times 44.4$
56	顏 17	1988	アクリル・紙	$58.3 \times 44.4$
57	顏 21	1988	アクリル・紙	$76.0 \times 56.5$
58	顔 7	1988	アクリル・紙	$58.3 \times 44.4$
59	顏10 鳥2 山1	1992	アクリル・紙	$59.0 \times 44.0$
60	裸子1 顔14	1992	アクリル・紙	$59.0 \times 43.5$
61	顏 12	1992	アクリル・紙	$44.0 \times 59.0$
62	顏 12	1992	アクリル・紙	$59.3 \times 43.5$
63	顏16 裸子4 馬5	1992	アクリル・紙	$74.3 \times 54.3$
64	顏4 裸子1 犬2	1992	アクリル・紙	$74.3 \times 54.3$
65	顔8 裸子4	1992	アクリル・発泡スチロール	$89.8 \times 79.9$
66	顔 17 (F)	1992	アクリル・発泡スチロール	$90.6 \times 65.5$
67	顏 20	1992	アクリル・発泡スチロール	$92.0 \times 57.9$
68	顔 16	1992	アクリル・発泡スチロール	$88.8 \times 71.8$
69	裸子3 顔32	1992	アクリル・発泡スチロール	$91.5 \times 91.0$
70	裸子1 顔70	1992	アクリル・発泡スチロール	$90.5 \times 90.8$

## 41 ピカソ「愛とエロチシズム」

#### ピエロ・クロムランク版画コレクション

会 期 1998年3月7日(土)~4月12日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団,読売新聞大阪本社 美術館連絡協議会

後 援 外務省,フランス大使館,NHK高松放送局 西日本放送,瀬戸内海放送

協 賛 花王株式会社

協 力 日本航空

**巡回先** 1997年7月23日(水)~8月31日(日)

小田急美術館

1997年9月6日(土)~10月26日(日)

川村記念美術館

1997年11月1日(土)~12月7日(日)

北海道立函館美術館

1998年1月10日(土)~2月1日(日)

河口湖美術館

1998年2月4日(水)~3月1日(日)

美術館「えき KYOTO

1998年4月16日(木)~5月17日(日)

そごう美術館・横浜

ピカソの有名な晩年の版画集『347シリーズ』『156シリーズ』を中心に紹介したものである。これらの版画はピカソの生への執着の表れか、凄まじいまでの官能の世界を表現したものである。制作のスピードも驚くべきもので、わずか7ヶ月で『347シリーズ』は完成に至っている。この時期、版画制作は終生芸術を追い求めたピカソの最も適した表現方法であったようだ。

また、本展はこの版画制作の刷り師をしていたピエロ・クロムランクの所蔵によるもので、彼の秘蔵のコレクションは初公開である。内容もさることながらエッチングによる流麗な線、あるいはアクアチントによる深い黒の調子など版画独特の表現は、鑑賞者の眼を大いに楽しませるものであった。





#### 関連企画

#### - 映画上映 -

3月7日(土),8日(日),14日(土),15日(日) 21日(土・祝),22日(日),28日(土),29日(日) 4月4日(土),5日(日),11日(土),12日(日) 14時~ 上映作品「ピカソ・天才の遺産」 会場2階ミュージアムホール 入場者数179人(12日間合計)

入場者数 5,679人

## **42** バスキア展

**朔** 1998年4月18日(土)~5月31日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団

後 援 アメリカ大使館,外務省,西日本放送 KSB瀬戸内海放送,四国新聞社

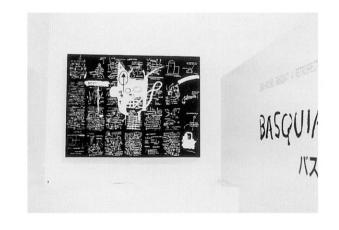
協 力 日本航空

**企画協力** ギャラリー・エンリコ・ナバラ, 吉井画廊

**巡回先** 1997年10月29日~11月24日 三越美術館・新宿

1980年代のニューヨークでは、若者たちによって新しい文化が次々と誕生した。アートシーンでは、街角から落書きによるグラフィティ・アーティストが登場している。その中でも黒人として初のスター・アーティストとして活躍したジャン・ミッシェル・バスキア(1960-1988年)は、力強いメッセージ性を持つ作品を通し、若者を中心とした多くの人々の心を捉えた。作品には自分のルーツとなるアフリカ的なモチーフや、スポーツ、コミックなど身近な素材が、政治的あるいは社会的なことばや文字とともに積極的に取り込まれている。わずか27歳の若さでこの世を去ったバスキアは、短い生涯のうちに、絵画2000点、そして3000点を越えるドローイングを残している。本展ではこれまで断片的にしか紹介されることのなかったバスキアの作品の中から、時代を踏まえた代表的な作品45点を集めて構成、展示したものである。





## 43 ジョルジュ・ブラック回顧展

**அ** 1998年6月6日(土)~7月19日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団

共 催 四国新聞社,西日本放送

後 援 フランス大使館 日本におけるフランス年実行委員会

共 催 東京海上

出品協力 ギャルリー・ルイーズ・レイリス 株式会社レイク

協 カ 日本航空,ヤマト運輸(株)

**巡回先** 1998年7月24日~8月30日 鹿児島市立美術館 1998年9月12日~10月25日 Bunkamura ザ・ミュージアム 1998年11月3日~12月13日 三重県立美術館

ジョルジュ・ブラック (1882-1963) は、パブロ・ピカソとともに20世紀の最も重大な美術革命ともいうべきキュビスム (立体派)を生み出した画家として有名だが、彼はそのような改革者としてのみならず、80年余の生涯のうちに篤々と自己を熟成させ、その芸術を熟達の境地に至らしめた人として稀有な存在である。

当初はフォーヴィスムの動向に加わっていたブラックだが、1907年頃からは「キュビスム」と呼ばれる立体的絵画を制作、20世紀美術の主要な特徴ともいうべき抽象美術の可能性に道を開いた。第一次世界大戦以降は、自己に親密な室内空間に主題を求めた独自の静物画と室内画の制作に没頭するようになった。

繊細精緻に仕上げられ、馥郁たるニュアンスをただよ わせているその熟達の境地を鑑賞するために、この展覧 会には、数少ない初期の作品から最晩年の作品に至る100 点の作品でブラック芸術を回顧した。





#### 関連企画

#### 記念講演会・

6月7日(日) 13時30分~

テ ー マ 「最後の楽園としての室内-ジョ

ルジュ・ブラックの芸術世界一」

会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 65人

#### ・ギャラリートーク **-**

6月21日(日) 14時~

7月5日(日) 14時~

参加者数 33人(2日間合計)

入場者数 5,657人

## 44 猪熊弦一郎と子どもたち

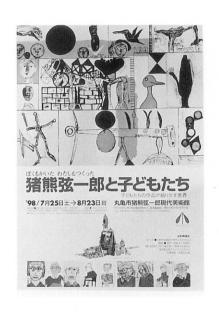
**会 期** 1998年7月25日(土)~8月23日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団

常に好奇心と新しいものに挑戦する勇気を持ちつつづけた画家、猪熊弦一郎。猪熊は子どもたちの直感で行なわれる様々な発見と、それらをもとにした常識にとらわれない素直な表現を心から愛していた。猪熊も子供だった頃、ブリキや針金、道端で拾った木の枝や石ころなどを砂や土と一緒に小さな引出しのなかに大切に保管していた。これらのものが猪熊の中にある創造力を触発し、目覚めさせ、育てたといえる。

本展は「猪熊弦一郎と子どもたちの対話」をテーマに、 猪熊の幼少期から晩年の作品と「あらゆるところに美は 潜んでいる」という視点で集められたコレクション、そ してそれらの作品などからインスピレーションを受けて 子どもたちが作った作品を集め、紹介した。

また、展示室内で実際に猪熊作品を目前にして子ども たちが創作活動(ワークショップ)を行い、日毎完成し ていく作品を展示する場を設けるなどの試みもあった。





#### 関連企画

#### 造形講演会。

8月2日(日)

テーマ 「豊かな創造力を育てるために」

講 師 荒井茂雄(洋画家)

会 場 2階ミュージアムホール

14時~

聴講者数 63人

入場者数 4,031人

作品リスト

番号	作 品 名	制作年	材 質	サイズ
1	黒いターゲットと袋	1979	アクリル・カンヴァス・コラージュ	$125.4 \times 90.7$
2	空の遊園地	1981	アクリル・カンヴァス	$122.0 \times 101.2$
3	星からの手紙 ラブ2	1983	アクリル・カンヴァス	$200.0 \times 250.2$
4	子供と発見	1984	アクリル・カンヴァス	$121.5 \times 101.0$
5	宇宙への入場券	1984	アクリル・カンヴァス	$126.5 \times 91.2$
6	ヘリコプターと犬	1984	アクリル・カンヴァス	$91.5 \times 76.3$
7	黄色の滑走路	1986	アクリル・カンヴァス	$127.0 \times 96.0$
8	通信衛星	1986	アクリル・カンヴァス	$194.0 \times 259.0$
9	家を作る	1987	アクリル・カンヴァス	$122.0 \times 101.8$
10	体操と水	1987	アクリル・カンヴァス	$136.0 \times 121.0$
11	二人の裸婦と一つの顔	1989	アクリル・カンヴァス	$194.0 \times 194.0$
12	顔 20 D	1989	アクリル・カンヴァス	$126.0 \times 90.8$
13	鳥たちの日記帳	1990	アクリル・カンヴァス	$193.8 \times 259.0$
14	ロボット 顔 鳥	1990	アクリル・カンヴァス	$96.0 \times 110.8$
15	裸子1 顔40 鳥6	1991	アクリル・カンヴァス	$162.0 \times 131.0$
16	黒い馬3	1991	アクリル・カンヴァス	$122.0 \times 101.0$
17	鳥とカイト	1992	アクリル・カンヴァス	$162.2 \times 130.3$
18	化石時代 92	1992	アクリル・カンヴァス	$110.8 \times 95.8$
19	カガシと鳥の対話	1993	アクリル・カンヴァス	$126.2 \times 95.8$
20	カガシの夢	1993	アクリル・カンヴァス	$121.0 \times 101.5$
21	武者絵	1910 - 1911	インク・紙	$9.0 \times 13.0$
22	みかん	1913	鉛筆·水彩·紙	$19.0 \times 26.0$
23	花	1914	水彩·紙	$29.4 \times 43.8$
24	遊園地に立つ	1982	アクリル・紙	$61.0 \times 44.0$
25	ロボット	1984	アクリル・紙	$59.4 \times 44.4$
26	星への旅	1984	アクリル・紙・コラージュ	$59.5 \times 44.4$
27	ポストオフィス	1984	アクリル・鉛筆・紙	$44.3 \times 29.2$
28	有楽町	1986	アクリル・紙	54.5× 42.0

オブジェ 9 点 子どもの作品 平面37点 立体47点

## 45 森村泰昌〔空装美術館〕

#### 一絵画になった私

会 期 1998年8月30日(日)~10月18日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団,朝日新聞社 瀬戸内海放送

協 賛 大日本印刷, 資生堂, ワコール

協 カ 亜土電子工業,松下電器 大日本トータルプロセス市谷 ウーファー・アート・ドキュメンタリー

**巡回先** 1998年4月25日~6月7日 東京都現代美術館 1998年6月16日~8月2日 京都国立近代美術館

1996年の『森村泰昌展―「女優シリーズ」より―』に続く、森村泰昌の展覧会。本展は森村の本質ともいえる 美術史シリーズにおいての活動を紹介した。

森村は1985年、ゴッホの有名な自画像一耳を切った自画像に自身を挿入させた作品を発表した。洋服や帽子は手作りである。が、どうしても隠しきれない森村自身の眼が鑑賞者を異様に捉えるというもので、森村はこの後愛する美術史上の名画の主人公に次々と扮していく。東洋人である彼が西洋人の女性として装うこと、あるいは今を生きる彼が時代を超えた世界に侵入すること等、作品はさまざまな解釈を提示してみせたといえる。展覧会では代表的な作品65点を展示したほか、鑑賞者も体験できるように「モリクラ・マシーン」を置くなど楽しめる展覧会を目指した。また撮影の仕組みのわかる模型もあわせて展示して、制作する森村にせまる試みもあった。

制作物 マップ





#### 関連企画

#### 講演会 -

8月30日(日) 14時~

テ - マ 「踏みはずす美術史を語る」

講師 森村泰昌(美術家)

会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 280人

#### - 『モリムラショー』-

9月20日(日) 15時~

1. マルチスライドショー

2. 美術家Mと市長の歌合戦

藤間金枝壽(踊り), 応平みどり(ピアノ)

協 力 多田正美, 市川 靖

入場者数 250人

入場者数 10,014人

### 46 <sup>開館7周年記念</sup> 荻須高徳と猪熊弦一郎展

**会 期** 1998年10月25日(日)~12月20日(日)

**主 催** 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団

共 催 朝日新聞社,瀬戸内海放送,西日本放送

1922年東京美術学校(現・東京芸術大学)西洋画科入 学以来の親友、そしてよきライバルであった荻須高徳 (1901-1986)と猪熊弦一郎(1902-1993)の二人展を 荻須美代子夫人の全面的な協力のもと、美術館開館7周 年を記念し開催した。

荻須はその生涯のほとんどをパリに暮らし、パリを描き続けた。その作品には、歴史が刻まれ人々が馴れ親しんだパリの建物や街角が描かれ、時代の変遷にともない消え行く街並みが、荻須によりカンヴァス上に留められた。

また猪熊も1938年から40年までをパリで過ごし、アンリ・マティスに師事し強い影響を受けた。すでに荻須がパリに滞在していたこともあり、家族ぐるみでのつきあいは帰国後も続いた。猪熊は1955年からニューヨークに渡り、画風が都会的な抽象へと一変し、さらに晩年には自由奔放で人間味溢れるスタイルへと展開した。また二人は美術家として優れた作品を残しただけでなく、それぞれ日仏、日米の文化交流にも尽くしている。

本展は作風は全く異なり制作拠点は遠く離れていた二人の、その長きにわたる画業を油彩、水彩、デッサンなど計134点で顧みた。

制作物 図録『開館7周年記念 荻須高徳と猪熊弦一郎』





#### 関連企画

対談 -

10月25日(日) 13時30分~

テーマ 「オギスを語る」

対 談 者 荻須美代子(荻須高徳夫人)

植松由佳(当館学芸員)

会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 83人

入場者数 6,886人

#### 荻須高徳 作品リスト

〈油彩〉

番号	作 品 名	制作年	技法·材質	サイズ	所 蔵
1	ボヘミアンの車	1928	油彩・カンヴァス	60.0× 73.0	個人蔵
2	農家	1928頃	油彩·板	$23.0 \times 33.0$	大阪市立近代美術館建設準備室
3	新聞屋	1929	油彩・カンヴァス	$60.0 \times 73.0$	個人蔵
4	街角 (グルネル)	1929 - 30	油彩・カンヴァス	$73.0 \times 61.0$	三重県立美術館
5	ガレージ	1930	油彩・カンヴァス	$60.0 \times 73.0$	個人蔵
6	ビュットォ・カイユ	1930	油彩・カンヴァス	$60.0 \times 73.0$	個人蔵
7	エドガール・キネ街	1930	油彩・カンヴァス	$60.0 \times 73.0$	大阪市立近代美術館建設準備室
8	婦人像	1931	油彩・カンヴァス	$100.0 \times 100.0$	稲沢市荻須記念美術館
9	広告のある家	1931	油彩・カンヴァス	$60.0 \times 73.0$	稲沢市荻須記念美術館
10	コルシカの靴屋	1931	油彩・カンヴァス	$100.0 \times 81.0$	個人蔵
11	コルシカの風景	1931	油彩・カンヴァス	$81.0 \times 100.0$	個人蔵
12	レストラン・ジルベール	1932	油彩・カンヴァス	$65.0 \times 92.0$	個人蔵
13	ムフタール街	1932	油彩・カンヴァス	$60.5 \times 73.5$	大阪市立近代美術館建設準備室
14	ルーアン	1933	油彩・カンヴァス	$100.0 \times 81.0$	個人蔵
15	チューリップ	1933	油彩・カンヴァス	$46.0 \times 38.0$	個人蔵
16	果物屋	1933 - 34	油彩・カンヴァス	$73.0 \times 60.0$	個人蔵
17	サン・リュスチック通り	1934	油彩・カンヴァス	81.0× 60.0	個人蔵
18	ノワルムーチェの捨てられた舟	1934	油彩・カンヴァス	58.8× 71.0	山種美術館
19	ノワルムーチェの風車	1934 - 36	油彩・カンヴァス	$89.0 \times 116.0$	稲沢市荻須記念美術館
20	マダムD	1935 - 36	油彩・カンヴァス	$73.0 \times 60.0$	個人蔵
21	洗濯場	1936	油彩・カンヴァス	$65.0 \times 81.0$	稲沢市荻須記念美術館
22	プロヴァン風景	1936	油彩・カンヴァス	$81.0 \times 100.0$	個人蔵
23	アンジュ河岸	1936	油彩・カンヴァス	$60.0 \times 73.0$	三重県立美術館
24	卓上の静物	1937	油彩・カンヴァス	$60.0 \times 91.0$	個人蔵
25	モンマルトル裏	1940	油彩・カンヴァス	$73.0 \times 90.0$	東京国立近代美術館
26	食料品店	1940	油彩・カンヴァス	$60.0 \times 73.0$	個人蔵
27	プレヴォ通り	1950	油彩・カンヴァス	$73.0 \times 53.0$	個人蔵
28	サン・ジェルマン・ロクセロワ(パリ)	1950	油彩・カンヴァス	$60.3 \times 73.4$	岐阜県美術館
29	ばら	1951	油彩・カンヴァス	$35.0 \times 27.0$	個人蔵
30	サン・ドニ風景	1952	油彩・カンヴァス	65.0× 81.0	山種美術館
31	アムステルダムの運河	1956	油彩・カンヴァス	$90.5 \times 64.0$	名古屋市美術館
32	モンマルトルの食料品店	1956	油彩・カンヴァス	$60.3 \times 73.4$	岐阜県美術館
33	シャロンヌ街	1957 - 58	油彩・カンヴァス	$65.0 \times 81.0$	個人蔵
34	道と看板	1958 - 59	油彩・カンヴァス	$71.7 \times 58.8$	名古屋市美術館
35	サン・ドニ	1958 - 59	油彩・カンヴァス	$73.0 \times 92.0$	名古屋市美術館
36	大運河 (ヴェネツィア)	1964	油彩・カンヴァス	60.0× 92.0	個人蔵
37	サン・ドニ	1964	油彩・カンヴァス	$88.8 \times 115.5$	愛知県美術館
38	サン・トゥースタッシュ寺院	1966頃	油彩・カンヴァス	60.0× 73.0	個人蔵
39	ル・ペック (パリ郊外)	1967	油彩・カンヴァス	$162.0 \times 130.0$	神奈川県立近代美術館
10	ヴェネツィア	1968	油彩・カンヴァス	$97.0 \times 130.0$	個人蔵

番号	作 品	名	制作年	技法·材質	サイズ	所道	菣	
41	緑の壁		1970	油彩・カンヴァス	65.0× 81.0	個人蔵		
42	ロジェ		1970	油彩・カンヴァス	116.0× 89.0	個人蔵		
43	オー・ボン・	ヴィヴァン	1972頃	油彩・カンヴァス	$89.0 \times 116.0$	個人蔵		
44	洗濯場		1977	油彩・カンヴァス	$129.9 \times 162.0$	呉市立美術	析館	
45	ア・ラ・グリ	ーユ	1978	油彩・カンヴァス	$81.0 \times 100.0$	個人蔵		
番号	〈水彩〉 作 品	名		制作年	技法·材質	サイズ		所蔵
<b>——</b>	TF HH	—		10315-4-		217		1711EX
46	ノワールムー	チェー		1934	水彩·紙	25.0× 3	2.6	個人蔵
47	リュクソール	(奥エジプ	卜)	1939	水彩·紙	$32.0 \times 2$	4.5	個人蔵
48	アトリエの窓			1949	水彩·紙	$32.0 \times 2$	4.5	個人蔵
49	ピジョニエー	ル(イル・	ドゥ・フラ	ンス) 1953	水彩·紙	$32.5 \times 2$	5.0	個人蔵
50	ラメイ通り(	モンマルト	ル)	1953	水彩·紙	$43.0 \times 3$	0.0	個人蔵
51	ボーブール街			1969	水彩·紙	$32.5 \times 2$	5.0	個人蔵
52	コマッキオ (	イタリー)		1970	水彩·紙	$25.0 \times 3$	2.0	個人蔵
53	小運河			1970	水彩·紙	$32.0 \times 2$	25.0	個人蔵
54	ヴェネツィア			1971	水彩·紙	$32.5 \times 4$	0.5	個人蔵
55	雪のサン・マ	ルタン運河		1971	水彩·紙	$24.5 \times 3$	1.5	個人蔵
56	レアールの取	り壊し		1971	水彩·紙	$25.0 \times 3$	2.0	個人蔵
57	広告塔(コロ	ンヌ モリフ	()	1978	水彩·紙	$31.9 \times 2$	4.9	個人蔵
58	アミアン			1980	水彩·紙	$30.5 \times 4$	3.0	個人蔵
59	カマレ・シュ	ル・メール		1981	水彩·紙	$32.0 \times 5$	0.0	個人蔵
60	カフェバー (	オー・カド	ゥラン)	1983	水彩·紙	$32.0 \times 2$	25.0	個人蔵
61	モンソー公園			1983	水彩·紙	$32.0 \times 2$	25.5	個人蔵
62	ドールの近く	で		1984	水彩·紙	$32.5 \times 2$	25.0	個人蔵
63	マントン(南	14)		1984	水彩·紙	$50.0 \times 3$	32.0	個人蔵
64	サン・クルー			1984	水彩·紙	$25.0 \times 3$	32.5	個人蔵
65	ヴェルノン			1985	インク、水彩・紙	$32.5 \times 2$	25.0	個人蔵
	〈素描〉							
番号	作 品	名		制作年	技法·材質	サイズ		所蔵
66	<b>温</b> I /鱼			1020	かた 紅	32.0× 2	04 5	個人蒜
66 67	婦人像ルーアン			1930 1934	インク・紙 鉛筆・紙	$25.0 \times 3$		個人蔵個人蔵
68	オランダの風	亩		1934	エギ・紙 インク・紙	$25.0 \times 3$ $25.0 \times 3$		個人蔵
69	裁判所(パリ			1937	鉛筆·紙	$20.5 \times 2$		個人蔵
70			. 11/- 35 -		鉛筆·紙	$20.5 \times 2$ $27.0 \times 2$		
			・ルーシュ					個人蔵
71	トリルポール			1952	鉛筆·紙	$21.5 \times 3$		個人蔵
72	ハーグ(オラ	19)		1953	鉛筆·紙	$25.0 \times 3$	52.5	個人蔵

番号	作 品 名	制作年	技法·材質	サイズ	所蔵
73	ラ・ロッシェル	1954	鉛筆·紙	25.0× 32.5	個人蔵
74	ウールック運河	1958	インク・紙	$30.5 \times 21.5$	個人蔵
75	マント・ラ・ジョリィの古い橋	1960	インク・紙	$21.5 \times 30.5$	個人蔵
76	アントワープ	1963	インク・紙	$24.0 \times 32.0$	個人蔵
77	サン・ロッコ (ヴェネツィア)	1963	インク・紙	$32.0 \times 24.8$	個人蔵
78	リエール、蔦	1964	インク・紙	$30.5 \times 21.5$	個人蔵
79	オーベルニュの村	1966	鉛筆·紙	$21.5 \times 30.7$	個人蔵
80	サン・ドニ運河	1968	インク・紙	$19.5 \times 27.4$	個人蔵
81	とぎ屋	1970	インク・紙	$15.4 \times 21.5$	個人蔵
82	肉屋	1970	インク・紙	$21.5 \times 30.5$	個人蔵
83	門	1973	インク・紙	$21.5 \times 15.0$	個人蔵
84	古い木	1977	インク・紙	$24.3 \times 31.4$	個人蔵
85	サン・トーバン	1981	鉛筆·紙	$32.0 \times 25.0$	個人蔵

〈タピスリー〉

番号 作 品 名 制作年 材質 サイズ 所蔵

86 ピア通り

1984 タピスリー 194.0×155.0 稲沢市荻須記念美術館

#### 猪熊弦一郎 作品リスト

〈油彩・アクリル〉

番号	作 品 名	制作年	技法·材質	サイズ
1	少年	1922	油彩・カンヴァス	116.6× 91.0
2	自画像	1925	油彩・カンヴァス	$37.8 \times 37.8$
3	画室	1932	油彩・カンヴァス	$180.3 \times 290.0$
4	地下鉄の中 (巴里)	1938	油彩・カンヴァス	$80.2 \times 65.0$
5	巴里のおばあさん	1938	油彩・カンヴァス	$72.0 \times 60.0$
6	自動車の中の家族	1938	油彩・カンヴァス	$73.0 \times 60.0$
7	アンブレラの女	1938	油彩・カンヴァス	$54.6 \times 45.5$
8	三人娘と自動車	1938	油彩・カンヴァス	$73.0 \times 60.0$
9	K君の像	1939	油彩・カンヴァス	$80.5 \times 64.4$
10	セロを弾く男	1939	油彩・カンヴァス	$60.8 \times 45.7$
11	パイプと男	1939	油彩・カンヴァス	$60.6 \times 50.0$
12	妻と手袋	1939	油彩・カンヴァス	$80.8 \times 60.0$
13	サクランボ	1939	油彩・カンヴァス	$80.4 \times 65.4$
14	ヴェニス	1939	油彩・カンヴァス	$59.0 \times 91.0$
15	モンマルトル裏街	1939	油彩・カンヴァス	64.1× 81.1
16	ホテルクロマニヨン	1939	油彩・カンヴァス	$50.0 \times 61.0$
17	巴里の屋根	1940	油彩・カンヴァス	$60.0 \times 72.5$

〈油彩・フ	ァクリル〉
-------	-------

	〈油彩・アクリル〉			
番号	作 品 名	制作年	技法·材質	サイズ
18	マドモアゼルM	1940	油彩・カンヴァス	81.2× 65.4
19	ヴァイオリンを持てる女	1940	油彩・カンヴァス	$80.6 \times 60.4$
20	極地設定 No. 1	1958	油彩・カンヴァス	$176.5 \times 205.3$
21	サーキュレーション オブ スペー	-ス 1961	油彩・カンヴァス	$152.0 \times 101.0$
22	赤と青の場所	1962	油彩・カンヴァス	$152.5 \times 127.3$
23	エントランス No. 2	1966	アクリル・カンヴァス	$152.5 \times 127.0$
24	ランドスケープ QR	1966	油彩・カンヴァス	$126.8 \times 127.1$
25	ウォーター ショアーズ C	1970	アクリル・紙	$101.2 \times 75.7$
26	ランドスケープ QJ	1971	アクリル・紙	$101.2 \times 75.8$
27	ランドスケープ NM	1971	アクリル・紙	101.3× 75.8
28	ランドスケープ AP	1971	アクリル・紙	101.0× 75.5
29	シティー コンポジション	1971	アクリル・紙	$100.9 \times 75.5$
30	飛び行く力	1978	アクリル・カンヴァス	$136.3 \times 122.0$
31	自由の住む都市	1980	アクリル・カンヴァス	$137.2 \times 122.0$
32	夜を飛ぶ	1980	アクリル・カンヴァス	$137.0 \times 122.3$
33	金環食	1987	アクリル・カンヴァス	$152.0 \times 120.9$
34	手の残した言葉	1991	アクリル・カンヴァス	$389.0 \times 259.0$
35	横臥裸子と鳥達	1991	アクリル・カンヴァス	$96.0 \times 127.0$
36	黒い裸子と馬	1991	アクリル・カンヴァス	111.5× 96.0
37	ロボット 顔 犬	1992	アクリル・カンヴァス	$194.0 \times 194.0$
38	カガシの夢	1993	アクリル・カンヴァス	$121.0 \times 101.5$
	〈素描など〉			
番号		制作年	技法·材質	サイズ
39	アトリエの静物	1929頃	鉛筆·紙	37.0× 28.0
40	裸婦	1934-35頃	鉛筆·紙	37.0× 28.0
41	肘かけ椅子の婦人	1935-36頃	鉛筆·紙	37.0× 28.0
42	巴里の家族	1938-40	鉛筆·紙	37.0× 27.4
43	街角の職人	1938-40	インク、パステル・紙	31.9× 48.2
44	まどろみ	1939頃	インク・紙	38.0× 29.3
45	室内楽と裸婦	1939頃	インク・紙	38.1× 29.3
46	フォンテーヌ (南佛)	1939	インク、パステル・紙	$31.9 \times 50.$
47	カードの4人	1940	インク、水彩・紙	$30.4 \times 48.$
48	魚	1940	インク、パステル・紙	$32.0 \times 46.$

## 47 大藪雅孝展 浸透するまなざし

**会 期** 1999年1月1日(金·祝)~1月31日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団

共 催 四国新聞社,西日本放送

後 援 香川県,香川県教育委員会,丸亀市 丸亀市教育委員会

協 力 産経新聞社, 岡山放送

巡回先 1998年10月2日(金)~10月7日(水)天満屋広島店画廊特設会場1998年10月29日(木)~11月4日(水)上野の森美術館

丸亀市制施行100周年を記念して、郷土出身の画家大 藪雅孝の展覧会を開催した。

大藪雅孝は、1937(昭和12)年ソウル (旧京城) に生まれ、帰国後、実家のある香川県善通寺市で暮らした。その後上京し、東京芸術大学を卒業後、1990(平成2)年同大学美術学部の教授となる。その間、アンフォルメルやコンセプチュアル・アートまでさまざまな表現を体験し、洋画のあらゆる技法をマスターする一方で、仏教美術など古典美術の研究に明け暮れ、日本美術のあらゆる造形手段も試みた。

そして、今日の画家独特のアクリル系絵画と岩絵具の 混合による象徴的な空間をつくりだしている。

テーマは犬、花、野菜などすべて身のまわりにある愛すべきものたちで、見るものに暖かさと安らぎを与えてくれる。

また故郷讃岐の自然の繊細さ、神々しさを描いた作品は、詩情溢れる豊穣な世界を生みだしている。

本展では、屛風絵、絵画を中心に、書、陶器など近作 をあわせて100余点出品し、自分の表現手法をあらゆる ジャンルに展開する大藪雅孝の世界を紹介した。





#### 関連企画

#### 講演会

1月17日(日) 14時~

テーマ 「大藪雅孝と現代日本の美術」

講 師 米倉 守(美術評論家,多摩美術大学教授)

会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 169人

入場者数 6,433人

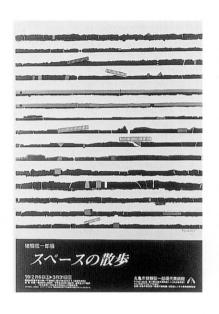
## 48 猪熊弦一郎展 スペースの散歩

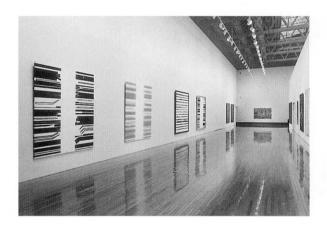
**会 期** 1999年2月6日(土)~3月31日(水)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団

猪熊弦一郎の作品は時代の流れとともに刻々と変化し ていったことが知られている。中でもニューヨークへの 移住は猪熊の人生にとっても作品にとっても重要な転機 となった。それまで具象と抽象の間にあった作品が、純 粋な抽象へと変化を遂げたのである。1955年から20年に 及ぶニューヨークでの制作活動の中で、作品は空間意識 とともに変化を続けている。まず、当時主流となってい た抽象表現主義の影響を受けつつ、東洋の空間意識を基 礎に描いた墨絵を思わせるような初期の作品がある。次 に自分を魅了したニューヨークという都市をテーマと し、無数の短い線が画面、そして空間を埋め尽くすよう に並んだ作品を制作した。そして後半、都市をテーマと しながらも、再び空間を大きく取り入れた作品群を描い ている。本展ではニューヨーク滞在の20年間に制作され た大作35点を中心に、猪熊の空間意識の変化を辿りなが ら展示した。

制作物 ワークシート





#### 関連企画

- ギャラリートーク **ー** 

2月7日(日) 13人, 2月21日(日) 16人 3月14日(日) 4人, 3月28日(日) 16人

- コンサート -

3月6日(土)

| 「声明ライヴ サマヤ・サンガ」 |出 演 者 サマヤ・サンガ (声明) | 栗田敬子 (シンセサイザー) | 森ゆき子 (サヌカイト, マリンバ)

入場者数 3,357人

作品リスト

番号	作 品 名	制作年	材 質	サイズ
1	自画像	1925	油彩・カンヴァス	37.8× 37.8
2	婦人像	1926	油彩・カンヴァス	$116.8 \times 91.0$
3	画室	1932	油彩・カンヴァス	$180.3 \times 290.0$
4	ピアノの前	1934	油彩・カンヴァス	$180.0 \times 290.0$
5	夜	1937	油彩・カンヴァス	$197.5 \times 289.5$
6	黄昏	1937	油彩・カンヴァス	$193.5 \times 130.5$
7	昼	1937	油彩・カンヴァス	$191.5 \times 129.0$
8	カラーランド	1956	油彩・カンヴァス	$124.5 \times 178.8$
9	カブキ No. 1	1956	油彩・カンヴァス	$122.0 \times 170.0$
10	ハニワ 1	1956	油彩・カンヴァス	$106.4 \times 175.5$
11	パインツリー 1	1956	油彩・カンヴァス	$178.0 \times 91.2$
12	空の散歩	1958	油彩・カンヴァス	$203.3 \times 178.0$
13	星座	1958	油彩・カンヴァス	$200.5 \times 180.0$
14	極地設定 No. 1	1958	油彩・カンヴァス	$176.5 \times 205.3$
15	クワイエット サーフィス オブ ジ アース	1959	油彩・カンヴァス	$177.0 \times 205.3$
16	極光	1959	油彩・カンヴァス	$176.5 \times 176.7$
17	拠点	1959	油彩・カンヴァス	$127.0 \times 127.0$
18	パントマイム	1959	油彩・カンヴァス	$127.0 \times 127.0$
19	極地設定 No. 2	1959	油彩・カンヴァス	$177.1 \times 140.0$
20	古い時の歩み	1960	油彩・カンヴァス	$198.0 \times 178.0$
21	獅子舞	1961	油彩・カンヴァス	$203.0 \times 183.0$
22	音のあそび	1961	油彩・カンヴァス	$152.5 \times 152.5$
23	八木節	1962	油彩・カンヴァス	$203.5 \times 172.8$
24	夜の誕生	1962	油彩・カンヴァス	$152.4 \times 127.2$
25	スクウェア	1962	油彩・カンヴァス	$127.0 \times 101.8$
26	スネークライン	1964	油彩・カンヴァス	$126.7 \times 203.5$
27	コンフュージョン アンド オーダー A	1964	油彩・カンヴァス	$203.1 \times 177.8$
28	並木道	1964	油彩・カンヴァス	$152.5 \times 101.5$
29	マンハッタン B	1967	アクリル・カンヴァス	$203.7 \times 152.6$
30	ザ シティー グリーン No.1	1968	アクリル・カンヴァス	$203.5 \times 178.0$
31	ザ シティー グリーン No.2	1968	アクリル・カンヴァス	$203.0 \times 178.0$
32	ザ シティー グリーン No.3	1968	アクリル・カンヴァス	$202.8 \times 152.4$
33	ザ シティー グリーン No.4	1968	アクリル・カンヴァス	$203.0 \times 152.5$
34	ザ シティー プラニング イエロー No.1	1968	アクリル・カンヴァス	$152.0 \times 153.0$
35	ザ シティー プラニング イエロー No.2	1968	アクリル・カンヴァス	$203.4 \times 152.7$
36	トゥー ショアーズ A	1970	アクリル・カンヴァス	$203.3 \times 178.0$
37	トゥー ショアーズ B	1970	アクリル・カンヴァス	$203.7 \times 178.0$
38	トゥー ショアーズ D	1970	アクリル・カンヴァス	$203.7 \times 177.8$
39	ウォーター ショアーズ A	1970	アクリル・カンヴァス	$203.3 \times 178.0$
40	ウォーター ショアーズ B	1970	アクリル・カンヴァス	$203.0 \times 178.0$

番号	作 品 名	制作年	材 質	サイズ
41	ランドスケープ BY	1972	アクリル・カンヴァス	$203.5 \times 178.8$
42	ランドスケープ GT	1972	アクリル・カンヴァス	$203.0 \times 178.5$
43	青い角・白い丸	1977	アクリル、コラージュ・紙	$73.8 \times 54.4$
44	丸と角 EX	1977	アクリル・紙	$73.8 \times 55.0$
45	スペース 緑 オレンジ	1977	アクリル・紙	$74.2 \times 55.0$
46	生命の発生	1978	アクリル・紙	$74.3 \times 54.9$
47	四つの生きた丸	1978	アクリル・紙	$74.7 \times 54.8$
48	緑の水平と丸の世界	1978	アクリル・紙	$73.2 \times 54.8$
49	角の群落	1978	アクリル・紙	$74.8 \times 54.8$
50	角と点とポスター	1979	アクリル・紙	$72.0 \times 57.0$
51	黄色スケジュール A	1980	アクリル・紙	$75.7 \times 54.7$
52	都市発芽	1980	アクリル・紙	$110.8 \times 94.9$
53	宇宙に機械が休んで居る	1981	アクリル・紙	$74.4 \times 55.5$
54	都市誕生	1981	アクリル・紙	$74.5 \times 54.5$
55	ハンズ 3	1982	アクリル・紙	$44.5 \times 36.0$
56	ハンズ 3	1982	アクリル・紙	$44.5 \times 36.0$
57	機械と鳥	1982	アクリル・紙	59.5× 43.9
58	整った空中都市	1982	アクリル・紙	$74.5 \times 55.7$
59	丸と遊歩道	1983	アクリル、鉛筆・紙	$59.4 \times 44.5$
60	爬虫類と鳥 A	1984	アクリル・紙	$59.4 \times 44.4$
61	ヤシの木に捧げる	1984	アクリル・紙	$59.4 \times 44.4$
62	絵の中に住む二つの絵	1985	アクリル・紙	$109.0 \times 79.3$
63	伝書鳩	1985	アクリル・紙	$44.3 \times 29.3$
64	斜線	1985	アクリル・紙	$44.3 \times 29.4$
65	或る形態	1985	アクリル・紙	$44.4 \times 29.3$
66	パイピング集合 B	1986	アクリル・紙	$58.5 \times 46.4$
67	不思議な飛行物体	1986	アクリル・紙	$58.5 \times 47.0$
68	ボールペン集合	1987	アクリル、コラージュ・紙	$76.0 \times 57.0$

# Ⅲ 美術作品整理·管理 i 貸出し

作 品 名	制作年	材 質	貸出先	貸出期間	展覧会名等
					1995年度(平成7年度)
年報1991-94(猪熊弦一郎近	遺作展)作	品リスト参照	浜松市美術館 呉市立美術館	1995. 6.12 ~8.23	猪熊弦一郎遺作展 -青春の軌跡-
フラミンゴ楽園	1938	油彩・カンヴァス			
赤い服の少女	1938	油彩・カンヴァス			
自動車の中の家族	1938	油彩・カンヴァス			
三人娘と自転車	1938	油彩・カンヴァス			
にんにくを売る子供	1938	油彩・カンヴァス			
巴里のおばあさん	1938	油彩・カンヴァス			
モロッコタピスリー売る男	1938	油彩・カンヴァス			
パイプと男	1939	油彩・カンヴァス			2
レゼジーの駅	1939	油彩・カンヴァス			
セロを弾く男	1939	油彩・カンヴァス			
ランドスケープ QR	1966	油彩・カンヴァス			
ランドスケープ グリーン A	1976	アクリル・カンヴァス			
地図でない地図 (E)	1978	アクリル・カンヴァス			
ターゲット達と三角	1979	アクリル・カンヴァス			
自由の住む都市	1980	アクリル・カンヴァス			
顏 35	1988	アクリル・カンヴァス			
顏 71	1989	アクリル・カンヴァス	上限ロイヤル	1995. 12. 19	
飛ぶ日のよろこび	1993	アクリル・カンヴァス	大阪ロイヤル		猪熊弦一郎展
風俗 2	1942	インク・紙	ホテル	$\sim 1.10$	
風俗3	1942	インク・紙			
スカーフの少女	1942	インク・紙			
猫と鳥	1945	インク・紙			
納屋	1945	インク・紙			
少年	1945	インク・紙			
婦人	不詳	インク・紙			
熊と猫	不詳	インク・紙	1 3		
室内	不詳	インク・紙			
オートバイ	不詳	インク・紙			
乳母車	不詳	インク・紙			
麦の穂	1919	水彩·紙			
栗	1945	水彩・インク・紙			
戦跡と子供	不詳	水彩・インク・紙			
子供の群像	不詳	水彩・インク・紙			
橋のある風景	不詳	水彩・インク・紙			
風俗 1	不詳	水彩・インク・紙			

作品名	制作年	材質	貸出先	貸出期間	展覧会名等
					1995年度(平成7年度)
風景(安陸)1	不詳	パステル・インク・紙			
風景(安陸) 2	不詳	パステル・インク・紙			
猫	不詳	鉛筆·紙			
表紙絵 娘と鳩笛	S 29.11	水彩·紙			
表紙絵 三月の顔	S31.3	水彩·紙			
表紙絵 うらじろ	S 34. 1	水彩·紙			
表紙絵 三方重ね餅	S 35. 1	水彩·紙			
表紙絵 タクシー	S 35. 5	水彩·紙			
表紙絵 新聞屋のおやじ	S 36. 9	水彩·紙			
表紙絵 柵	S 37. 7	水彩·紙			
表紙絵 眼	S 37.11	水彩·紙			
表紙絵 犬	S 38.11	水彩·紙			
表紙絵 クリスマスツリー	S 38.12	水彩·紙			4
表紙絵 茶	S 40. 1	水彩·紙			
表紙絵 クリスマスツリー	S 42.12	水彩·紙			
表紙絵 かきぞめ	S 43. 1	水彩·紙			
表紙絵 正月のももわれ	S 45. 1	水彩·紙	大阪ロイヤル	1995. 12. 19	<b>独起</b> 加尼
表紙絵 日本の顔と着物	S 45. 2	水彩·紙	ホテル	~1.10	猪熊弦一郎展
表紙絵 メキシコの毛糸	S 45.11	水彩·紙			
表紙絵 シメナワ	S 46. 1	水彩·紙			
表紙絵 首	S 46. 7	水彩·紙			
表紙絵 若人の髪	S 46. 9	水彩·紙			
表紙絵 二人	S 47. 1	水彩·紙			,
表紙絵 正面の顔	S 47. 6	水彩·紙			
表紙絵 表紙	S47.9	水彩·紙			
表紙絵 元旦の女性	S 48. 1	水彩·紙			
表紙絵 横顔	S 48. 4	水彩·紙			
表紙絵 健康の色	S 53. 4	水彩·紙			
表紙絵 ウィッグ	S 53.11	水彩·紙			
表紙絵 高校生	S 54. 6	水彩·紙			
表紙絵 正月からの顔	S 56. 1	水彩·紙			
表紙絵 感じのいい顔	S 57. 2	水彩·紙			
表紙絵 自然な姿	S 57. 4	水彩·紙			
表紙絵 タピストリーの布団	S 58. 8	水彩·紙		-	
ピンク・丸・角	1977	アクリル・カンヴァス			
地図でない地図	1978	アクリル・カンヴァス			
都市の中の親しい仲間	1979	アクリル・カンヴァス			
都市計画(楽しいプロジェクト)	1979	アクリル・カンヴァス			
自由の住む都市	1980	アクリル・カンヴァス			
速達	1980	アクリル・カンヴァス			
宇宙は機械の運動場 No. 1	1981	アクリル・カンヴァス	暮しの手帖	1996. 3.16	暮しの手帖
空の遊園地	1981	アクリル・カンヴァス	別館	$\sim 4.22$	者能弦一郎展
垂直に飛ぶ	1981	アクリル・カンヴァス	AN KE	4.22	7日25734 5171次
明るい遊歩	1983	アクリル・カンヴァス			
空中発芽	1983	アクリル・カンヴァス			
もう一つの地球	1983	アクリル・カンヴァス			
アリゾナ通信	1984	アクリル・カンヴァス			
創成期の生物達	1985	アクリル・カンヴァス			
動物と旗	1985	アクリル・カンヴァス			

作 品 名	制作年	材 質	貸出先	貸出期間	展覧会名等
					1995年度(平成7年度)
ポートレイトの会話	1988	アクリル・カンヴァス			
顏 47	1988	アクリル・カンヴァス	暮しの手帖	1006 2 16	暮しの手帖
顏 19	1988	アクリル・カンヴァス			
カガシの夢	1993	アクリル・カンヴァス	別館	$\sim 4.22$	猪熊弦一郎展
裸子と顔	1993	アクリル・カンヴァス			
					1996年度(平成8年度)
年報1991-94(猪熊弦一郎沿	遺作展)作	品リスト参照	神戸市立小磯 良平記念美術 館	1996. 4.14 ~ 6.18	猪熊弦一郎遺作展 - 青春の軌跡-
馬と少女	1935	油彩・カンヴァス	神奈川県立近代 美術館·兵庫県 立近代美術館	1996. 3.23 ~ 7.25	サーカスがやって¾ た!
猫によせる歌	1952	油彩・カンヴァス	** E II - 1 / 1 / 1	1000 5 15	こどもが見る、おとな
猫と食卓	1952	油彩・カンヴァス	群馬県立近代 美術館	1996. 7.17 ~ 9.13	が見る、美術の国の重 物たち
ピアノの前	1934	油彩・カンヴァス	広島県立美術 館	1996. 9.20 ~11.14	20世紀美術の誕生- 1920・30年代の欧州・ 米国・日本-
自画像	1921	油彩・カンヴァス			
少年	1922	油彩・カンヴァス			
母の像	1924	油彩・カンヴァス			
自画像	1924	油彩・カンヴァス			
婦人像	1926	油彩・カンヴァス			
眠れる女	1927	油彩・カンヴァス			
水差しを持てる女	1930	油彩・カンヴァス			
天主堂(長崎)	1931	油彩・カンヴァス			
灰色の服	1933	油彩・カンヴァス			
巴里のおばあさん	1938	油彩・カンヴァス			
赤い服の少女	1938	油彩・カンヴァス			
ホテルクロマニヨン	1939	油彩・カンヴァス			
レゼジーの駅	1939	油彩・カンヴァス			
パイプと男	1939	油彩・カンヴァス			
セロを弾く男	1939	油彩・カンヴァス		1006 10 27	
マドモアゼルM	1940	油彩・カンヴァス	松山三越	1996. 10. 27	猪熊弦一郎の世界展
長江埠の子供達	1941	油彩・カンヴァス		~11. 5	
マニラの二人の少女	1942	油彩・カンヴァス			
ダムのある風景	1944	油彩・カンヴァス			
黄色いスカートの婦人	1946	油彩・カンヴァス			
猫と文子	1949	油彩・カンヴァス			
二人の子供	1950	油彩・カンヴァス			
猫と子供	1951	油彩・カンヴァス			
猫と食卓	1952	油彩・カンヴァス			
月へのいざない	1962	油彩・カンヴァス			
ランドスケープ QR	1966	油彩・カンヴァス			
シティープラニング D	1964	アクリル・カンヴァス			
エントランス No. 2	1966	アクリル・カンヴァス			
シティー グリーン ライト	1967	アクリル・カンヴァス			
驚く可き風景 A	1969	アクリル・カンヴァス			
ピンク・丸・角	1977	アクリル・カンヴァス			

作品名	制作年	材質	貸出先	貸出期間	展覧会名等
					1996年度(平成8年度)
地図でない地図 (E)	1978	アクリル・カンヴァス			,
ターゲット達と三角	1979	アクリル・カンヴァス			
自由の住む都市	1980	アクリル・カンヴァス			
空の遊園地	1981	アクリル・カンヴァス			
空中発芽	1983	アクリル・カンヴァス			
宇宙都市計画	1987	アクリル・カンヴァス			
未知の世界への着地	1987	アクリル・カンヴァス			
金環食	1987	アクリル・カンヴァス			
顔 47	1988	アクリル・カンヴァス			
顔 35	1988	アクリル・カンヴァス			
靴と鳥	1990	アクリル・カンヴァス			
裸婦9 顔15 鳥2	1990	アクリル・カンヴァス			
飛ぶ日のよろこび	1993	アクリル・カンヴァス			
カガシの夢	1993	アクリル・カンヴァス			
風車と鳥	1993	アクリル・カンヴァス			
鳥達の遊び	1993	アクリル・カンヴァス			L.
青年	1934	インク・紙			
藤田嗣治像	1938	インク・紙			
フランス婦人像	1939	インク・紙			
パリの婦人	1939	インク・紙		1000 10 07	
セロを弾く男	1939	インク・紙	松山三越	1996. 10. 27	猪熊弦一郎の世界展
座る男	1943	インク・紙		~11. 5	
頭巾をかぶる女	1943	インク・紙			
編み物をする女	1945	インク・紙			
婦人像	1927	鉛筆·紙			
椅子にすわる女	1930	コンテ・紙			
花	1914	水彩·紙			
アレパツス トレイネー(パリ)	1939	インク・パステル・紙			
リュ デュ シャトー (パリ)	1939	インク・パステル・紙			
安陸風景	1941	インク・パステル・紙			
風景	1943	インク・パステル・紙			
表紙絵 日本の顔と着物	S 45. 2	水彩·紙			
表紙絵 正面の顔	S 47. 6	水彩·紙			
表紙絵 元旦の女性	S 48. 1	水彩·紙			
表紙絵 おかっぱ	S 53. 8	水彩·紙			
表紙絵 ウィッグ	S 53.11	水彩·紙			
表紙絵 プロポーション	S 54. 5	水彩·紙			
表紙絵 顔の造作	S 56. 8	水彩·紙			
表紙絵 朝出て来る顔	S 56.11	水彩·紙			
表紙絵 感じのいい顔	S 57. 2	水彩·紙			
表紙絵 タピストリーの布団	S 58. 8	水彩·紙			
E bestels Ministr					1997年度(平成9年度)
長江埠の子供達	1941	油彩・カンヴァス	高知県立美術	1998. 3.18	
			館	~ 5.20	の歩み
<i>+</i> ∃ <i>1. 1/4</i> •	1002	14.00 A 18 -			1998年度(平成10年度)
婦人像	1926	油彩・カンヴァス	5年四十七八	1000 0 0	
昼	1937	油彩・カンヴァス	兵庫県立近代	1998. 8.25	没後10年小磯良平展
夜	1937	油彩・カンヴァス	美術館	~11.20	
黄昏	1937	油彩・カンヴァス			

# IV 教育普及事業i ワークショップ

子どもたちの豊かな感性と創造力を伸ばし、育むことを目的として、主に小・中学生を対象にワークショップを開催した。

ワークショップ名	開催日時·会場	講	師	対	象	人数	参加費	内 容	
「重ねてつくるコルクの人形」	1995.4.8仕) 9:30~12:00 造形スタジオ	川崎(現代美		小·中等	学生	42人	無料	コルクシートを積み重ねて動物や人 形を作る。	
	1995. 5. 13(±)· 27(±)	荒井	<b>本</b> 批			38人		大きなダンボールを素材にして、自	
「家を建てよう」	9:30~12:00 造形スタジオ	(洋画		小・中等	学生	38人	無料	分が入ることのできる家を作る。	
「毛糸で絵をかこう」	1995.6.10仕) 9:30~12:00 造形スタジオ	四宮	金一	小·中等	学生.	41人	無料	厚紙に毛糸を貼りつけて海の生き 物を描く。	
「ヴァリハをつくろう <u>」</u>	1995.6.24生) 10:00~14:00 造形スタジオ	ジュン・ヴァリ		小学校 (4~6 中学生	5年)	28人	無料	アフリカの民族楽器〈ヴァリハ〉を作る。	
「モデルにそっくり	1995. 7. 8(±)· 22(±)	大西	唐丧			38人	t del	友だちをよく観察して、ブロンズ粘	
粘土で人を作ろう」	9:30~12:00 造形スタジオ		刻家)	小·中华	学生.	37人	— 無料 人	土で友人の頭像を作る。	
夏休み 「南の島へ冒険旅行」	1995.7.26(水) ~30(日) 9:30~12:00 造形スタジオ	美術館?	スタッフ	小·中等	学生.	196人 (5日間合計)	無料	「南の島へ冒険旅行」というテーマ からイメージするものを自由に作る。	
夏休み 「美術館探検-集まれ!! ちっちゃな探検家たちー」	1995. 8. 5仕)· 12仕)· 18金) 19仕)· 25金) 26仕)	美術館	スタッフ	小学生		270人	小学生 ¥500	展示室だけでなく、普段見ることが できない美術館の裏側までワークシ ートをしながら探検する。	
「ゆらゆらゆれる レインボーバードをつくろう」	10:00~12:00 13:00~15:00 美術館内		展子(術作家)	その保	その保護者		(6日間) (全計) (全計) (本計) (本計) (本計) (本計) (本計) (本計) (本計) (本	午後からカラードフォルムを使用し 南の島に住んでいそうなカラフルな 鳥を作る。	
	1995. 9. 9仕) 23仕 祝)	芒北	茂雄		V. 11	33人		100年後の未来都市で、発明され	
「2095年未来の乗り物大発明」	JILJI		荒井 茂雄 小・・		小·中学生		無料	ているかもしれない乗り物を想像して作る。	
「のばしてこねて陶芸に挑戦」	1995.10.14仕) 9:30~12:00 造形スタジオ		栄一 <sup>刻家)</sup>	小・中華	学生	38人	無料	陶芸用粘土で低学年は魚のレリーフを高学年は手び練りで器を作る。	

ワークショップ名	開催日時·会場	講師	対 象	人数	参加費	内容	
「アート探しの冒険」	1995.11.11仕) ・12(日) 9:30~12:00 丸亀城 造形スタジオ	荒井 茂雄 (洋画家)	小·中学生	24人	無料	自然のもので形の面白いもの、美しいものを拾い集めてダンボール台紙の上に貼り付け、「秋」を表現する。	
「カメラを使わないビックリ写真 ーピンホールカメラー」	1995.12.9生) 9:30~12:00 丸亀駅周辺 造形スタジオ	高橋 章 (写真家)	小学校高学年 (4~6年生) 中学生	18人	無料	ピンホールカメラを使って撮影し、い つもとは一味違う写真を作る。	
「カメラを使わないビック!]写真 ーフォトグラムー」	1995.12.23(士祝) 9:30~12:00 造形スタジオ	高橋 章 (写真家)	小学校高学年 (4~6年生) 中学生	18人	無料	フォトグラムの技法を用いて面白い 写真を撮り、現像する。	
[	1996. 1. 13(±)· 27(±)	川崎 展子	1 -1-24	31人	fre skil	ビニール袋、ひのき棒を使って、カラ	
「立体だこを飛ばそう」	9:30~12:00 造形スタジオ	(現代美術作家)	小·中学生	31人	無料	フルな立体だこを作る。	
「コロコロ石でアートしよう」	1996.2.10仕) 9:30~12:00 造形スタジオ	塩田 繚麻	小·中学生	28人	無料	石に穴をあけたり、接着したりして、 動物やオブジェを作る。	
「ピカピカ金属で オブジェをつくろう」	1996.2.24生) 9:30~12:00 造形スタジオ	塩田 繚麻 (彫刻家)	小学校高学年 (4~6年生) 中学生	14人	無料	トタン板を切ったり、はんだづけをし たりして、オブジェを作る。	
「自然の色ってきれいだね ー植物で染めよう 1-」	1996.3.9仕) 9:30~12:00 造形スタジオ	石井 美江 (染色家)	小·中学生	28人	無料	木綿のハンカチを糸や割り箸、輪ゴムで絞り、玉葱の皮で染めてオリジナルハンカチを作る。	
「自然の色ってきれいだね 一植物で染めよう 2-」	1996.3.23仕) 9:30~12:00 造形スタジオ	石井 美江 (染色家)	小·中学生	27人	無料	木綿のハンカチを糸やわり箸、輪ゴムで絞りよもぎの皮で染めてオリジナルハンカチを作る。	
「版画で自分だけの	1996.4.13(±)· 27(±)	川崎 展子	I da Watt.	34人	77.500	ステンシルの技法を用いて、オリジ	
Tシャツをつくろう」	9:30~12:00 造形スタジオ	(現代美術作家)	小·中学生	34人	¥500	ナルTシャツを作る。	
Code det Michael III de la Caracia	1996. 5. 11(±)· 25(±)	荒井 茂雄	I LAW I	37人	fore stead	ダンボール板の上に空き箱等の廃	
「空想遊園地をつくろう」	9:30~12:00 造形スタジオ	(洋画家)	小·中学生	37人	無料	材を接着し、自分の行ってみたい空 想の遊園地を作る。	
	1996. 6. 8(±)·	小石原 剛		25人		牛乳パックの砕いたものを使用して	
「紙漉きでつくろうぼくらの帽子」	9:30~12:00 造形スタジオ	(現代美術作家)	小·中学生	25人	無料	紙を漉き、ボールで形を整えてオリ ジナルの帽子を作る。	





開催日時·会場	講師	対 象	人数	参加費	内 容
1996.7.13仕) 9:30~12:00 造形スタジオ	川崎 展子 (現代美術作家)	小·中学生	26人	¥300	色和紙をうちわの骨にはりつけ、好き な形のうちわを作る。
1996.7.25(木) ~28(日) 9:30~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	128人 (4日間) 合計)	無料	ダンボールに様々な材料をはりつけて装飾用のお面を作る。完成後数点ずつダンボールの柱に飾りトーテムポール風にする。
1996.8.3·10· 17·24(毎土) 10:00~12:00 美術館内	美術館スタッフ	小・中学生 と保護者	206人(4日間)合計)	無料 保護者 のみ ¥950	展示室だけでなく、普段見ることが できない美術館の裏側まで、ワーク シートをしながら探検する。
1996.8.1休 ~8.10仕) 13:30~16:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	対象不問	324人(10日間)合計)	¥200	30cm四方のベニヤ板に、アフリカに 住んでいそうな動物や人などの絵 をペンキで描く。
1996.8.11(日) ~8.17(土) 13:30~16:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	対象不問	284人(7日間合計)	¥200	土粘土で器を作り、縄や木の枝などで表面に模様をつけたり、キリで動物の絵を描いたりする。
1996.8.18(日) ~8.24(土) 13:30~16:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	対象不問	243人 (7日間) 合計)	無料	貝殻、小枝、石、革、草、など自然の ものを使ってオブジェを作る。
1996.9.14生) 9:30~12:00 造形スタジオ	辻野 栄一 (彫刻家)	小·中学生	28人	無料	縄、クリップなど形の面白いものを粘 土に型押しし、石膏を流しいれて型 をとりオブジェを作る。
1996.9.28生) 9:30~12:00 造形スタジオ	辻野 栄一 (彫刻家)	小·中学生	31人	無料	陶芸用粘土を使用して、器を作る。
1996.10.12仕) ・26仕) 9:30~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小·中学生	34人	無料	「私はこんな人(もの)になってみたい」と思うものを考えそれらに変身するための衣装や小道具を制作し、 試着する。
1996.12.14生) 9:30~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小·中学生	36人	無料	不要になった空き缶など、金属の廃 品を使用してオブジェを作る。
1997.1.11(±) ·25(±) 9:30~12:00	川崎 展子 (現代美術作家)	小・中学生	30人	無料	色々な大きさに切ったダンボールを ワリピンでとめ、関節の動く人形を作
	1996.7.13(土) 9:30~12:00 造形スタジオ 1996.8.3・10・17・24(毎土) 10:00~12:00 美術館内 1996.8.1(木)~8.10(土) 13:30~16:00 造形スタジオ 1996.8.18(日)~8.17(土) 13:30~16:00 造形スタジオ 1996.8.18(日)~8.24(土) 13:30~16:00 造形スタジオ 1996.9.28(土) 9:30~12:00 造形スタジオ 1996.9.14(土) 9:30~12:00 造形スタジオ 1996.9.28(土) 9:30~12:00 造形スタジオ 1996.9.28(土) 9:30~12:00 造形スタジオ 1996.10.12(土)・26(土) 9:30~12:00 造形スタジオ 1997.1.11(土)	1996.7.13(土) 9:30~12:00 造形スタジオ  1996.7.25(木) ~28(田) 9:30~12:00 造形スタジオ  1996.8.3·10・ 17·24(毎土) 10:00~12:00 美術館内  1996.8.1(木) ~8.10(土) 13:30~16:00 造形スタジオ  1996.8.18(日) ~8.17(土) 13:30~16:00 造形スタジオ  1996.8.18(日) ~8.24(土) 13:30~16:00 造形スタジオ  1996.9.14(土) 9:30~12:00 造形スタジオ  1996.9.28(土) 9:30~12:00 造形スタジオ  1996.10.12(土) ·26(土) 9:30~12:00 造形スタジオ  1996.10.12(土) ·26(土) 9:30~12:00 造形スタジオ  1996.12.14(土) 9:30~12:00 造形スタジオ  1997.1.11(土)	1996.7.13(±) 9:30~12:00 造形スタジオ  1996.7.25(木) ~28(日) 9:30~12:00 造形スタジオ  1996.8.3·10· 17·24(毎土) 10:00~12:00 美術館内  1996.8.1(木) ~8.10(土) 13:30~16:00 造形スタジオ  1996.8.11(日) ~8.17(土) 13:30~16:00 造形スタジオ  1996.8.18(日) ~8.24(土) 13:30~16:00 造形スタジオ  1996.9.14(土) 9:30~12:00 造形スタジオ  1996.9.12(土) 9:30~12:00 造形スタジオ  1996.9.28(土) 9:30~12:00 造形スタジオ  1996.10.12(土) ·26(土) 9:30~12:00 造形スタジオ  1996.10.12(土) ·26(土) 9:30~12:00 造形スタジオ  1996.12.14(土) 9:30~12:00 造形スタジオ  1996.12.14(土) 9:30~12:00 造形スタジオ  1996.12.14(土) 9:30~12:00 造形スタジオ  1996.12.14(土) 9:30~12:00 造形スタジオ  1997.1.11(土) ·25(土)	1996. 7. 13(±) 9:30~12:00 造形スタジオ 1996. 7. 25(木) ~28(旧) 9:30~12:00 造形スタジオ 1996. 8. 3·10· 17·24 (毎土) 10:00~12:00 美術館内 1996. 8. 1(木) ~8. 10(土) 13:30~16:00 造形スタジオ 1996. 8. 11(旧) ~8. 17(土) 13:30~16:00 造形スタジオ 1996. 8. 18(旧) ~8. 24(土) 13:30~16:00 造形スタジオ 1996. 9. 14(土) 9:30~12:00 造形スタジオ 1996. 9. 14(土) 9:30~12:00 造形スタジオ 1996. 9. 14(土) 9:30~12:00 造形スタジオ 1996. 1. 12(土) 26(土) 9:30~12:00 造形スタジオ 1996. 1. 11(土) 25(土) 1997. 1. 11(土) 25(土) 25(土) 26(土) 25(土) 25(土) 25(土) 26(土) 25(土) 25(土) 26(土) 25(土) 26(土) 25(土) 26(土) 27(上) 28(上) 28(上) 24(スト(大日間) 24(スト(大日間) 24(スト(大日間) 24(スト(大日間) 25(土) 24(スト(大日間) 25(土) 24(スト(大日間) 24(スト(大日間) 24(スト(大日間) 25(土) 25(土) 26(上) 26(上) 27(スト(大日間) 26(上) 27(スト(大日間) 27(スト(大日間) 28(ムト(大日間) 28(ムト(大日	1996.7.13(出) 9:30~12:00 造形スタジオ 1996.7.25(内) -28(旧) 9:30~12:00 造形スタジオ 1996.8.3·10・ 17·24(毎土) 10:00~12:00 美術館内 1996.8.1(木) ~8.10(出) 13:30~16:00 造形スタジオ 1996.8.11(旧) ~8.17(出) 13:30~16:00 造形スタジオ 1996.8.18(旧) ~8.24(出) 13:30~16:00 造形スタジオ 1996.8.18(旧) ~8.24(出) 13:30~16:00 造形スタジオ 1996.8.18(旧) ~8.24(出) 13:30~16:00 造形スタジオ 1996.9.12(10 造形スタジオ 1996.9.12(10 造形スタジオ 1996.9.28(出) 9:30~12:00 造形スタジオ 1996.10.12(出) 26(出) 9:30~12:00 造形スタジオ 1996.10.12(出) 26(出) 27(財) 28(人 (下日間)





ワークショップ名	開催日時·会場	講師	対 象	人数	参加費	内 容
「わたしだけのおひなさまづくり」	1997.2.8仕)・ 22仕) 9:30~12:00 造形スタジオ	大西 康彦	小·中学生	26人	無料	紙粘土でオリジナル雛人形を作る。 (題材は人間に限らず動物や想像 上の生物でも可)
「サラサラ砂で絵をかこう」	1997.3.8生) 9:30~12:00 造形スタジオ	四宮 金一	小·中学生	32人	無料	ケント紙にボンドで〈春〉をテーマに した絵を描き、砂をふりかけ、絵を作 る。
「絵をかいて中を のぞいてみよう」	1997.3.22(土)・ 23(日) 9:30~12:00 造形スタジオ	四宮 金一 (洋画家) 美術館スタッフ	小·中学生	32人	無料	ダンボール板に好きな絵を描き、ところとどころに切れ目をいれ、うす紙だけをはがして中の波型を見せ、おもしろい絵を作る。
「お料理アート大作戦!」	1997.4.12仕)・ 26仕) 9:30~12:00 造形スタジオ	川崎 展子 (現代美術作家)	小・中学生	30人	無料	「食べられるアート」としてお菓子や 果物などの食材で作品を作り、試 食する。
「ひらひら・ぱたぱた・ はね・つばさ」	1997.5.10仕)・ 24仕) 9:30~12:00 造形スタジオ	後藤 朝子 (人形作家)	小·中学生	20人	無料	ダンボールや色画用紙その他廃品 などを用いて、オリジナルの羽や翼 を作り身につけて遊ぶ。
「宇宙人をつくろう」	1997.6.14(土)・ 28(土) 9:30~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小·中学生	33人 28人	無料	地球上に存在しないような面白い 生き物を想像して、作る。
夏休み 「美術館探検」	1997.7.25金 ~27円 10:00~12:00 美術館内	美術館スタッフ	小·中学生と その保護者	153人(3日間)合計)	保護者 のみ ¥850	展示室だけでなく、普段見ることが できない美術館の裏側まで、ワーク シートを解きながら探検する。
夏休み 「あつまれ!!ちびっこデザイナー」 レクチャー	1997.7.30(水) 10:00~11:40 ミュージアム ホール	津村 耕祐 (ファッション デザイナー)	次の日からの 制作に参加す る小・中学生	136人	無料	服にまつわる話や次の日からの制 作についての話を聞く。
夏休み 「あつまれ!!ちびっこデザイナー ー未来につながる服をつくろうー」	1997.7.31(木)・ 8.1(金)・2(土)・ 3(日) 9:30~12:00 造形スタジオ	津村 耕祐 (ファッション デザイナン デザイン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	小·中学生	139人(4日間合計)	無料	3~5人のグループの共同制作で、オリジナルの服を作る。テーマは「未来につながる服」。なお、服以外に作りたいグループは靴、鞄などその他付属品を作ってもよい。(制作後、希望グループは作品にあわせてヘアー・メークも考え用紙に描き込む。)





ワークショップ名	開催日時·会場	講師	対 象	人数	参加費	内 容
夏休み 子どもファッションショー 「MIMOCA KIDS COLLECTION」	1997.8.10(日) 9:30~12:00 ゲートプラザ	津村 耕祐 田村 孝司 (演出家) 他+C298	小・中学生	81人	無料	「あつまれ!!ちびっこデザイナー」で 完成した作品を発表する。
夏休み オープンワークショップ 「カラフルくねくねアート」	1997.8.12(火) ~18(月) 13:30~17:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	対象不問	470人 (7日間)合計)	¥200	カラーワイヤー、針金、銅線など細く て曲がる素材を使用してオブジェを 作る。
「ふしぎワールドをつくろう」	1997.9.13生) 9:30~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小·中学生	16人	無料	写真、雑誌の切り抜き、シールなどを 大きな紙にコラージュし不思議な世 界を作る。
「ふしぎワールドをつくろう」	1997.9.27生) 9:30~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小·中学生	33人	無料	1回目と同内容。 参加者をかえ、同じテーマでワーク ショップを実施。
「君も陶芸家だ! やきものにチャレンジ」	1997.11.8生) 9:30~12:00 造形スタジオ	辻野 栄一 (彫刻家)	小·中学生	33人	¥300	陶芸用粘土を使用して器を作る。
「顔・かお・ペイントアート」	1997.12.13仕) 9:30~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小·中学生	27人	無料	顔に自由な絵や図柄など を描いて遊ぶ。
「切手倶楽部 一顔の切手をつくっちゃおうー」	1998.1.24生) 9:30~12:00 造形スタジオ	太田 三郎 (美術家)	小·中学生	26人	無料	顔をテーマにコピー機などを使用し てオリジナル切手を作る。
「ガラスのキラキラオブジェを つくろう」	1998.2.28生) 9:30~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小·中学生	42人	無料	ガラスの廃品を利用して自由にオ ブジェを作る。
「絵の具とあそぼう ーフィンガーペインティングー」	1998.3.14仕) 9:30~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小·中学生	38人	無料	絵の具の感触を楽しみながら、自分 の手足を使って自由に絵を描く。
「ほらない版画リトグラフ」	1998.3.28生) 9:30~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小·中学生	27人	¥500	リトグラフが比較的簡単に楽しめる リトペーパーを使用し版画の作品を 制作する。
「恐竜天国 一好きな恐竜をつくろうー」	1998.4.11(土)・ 25(土) 9:30~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小·中学生	32人	無料	各自が想像する恐竜を、紙粘土で 作り、着色して仕上げる。
「あれ?不思議タオルで彫刻」	1998.5.9仕) 9:30~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	46人	無料	タオルに石膏を含ませ好きな形を作り、着色して仕上げる。
「でっかい絵本 "ハッテヤブッテ"」	1998. 6. 13(±) 27(±) 9:30~12:00	美術館スタッフ	小·中学生	28人	無料	魔法の世界をテーマに、巨大発泡 スチロール板の上にデコラージュの 技法を用いて制作する。
夏休み 「展示室でつくろう」	造形スタジオ 1998.7.25(±) 7.26(日) 9:30~12:00 3階展示室	美術館スタッフ	小・中学生	56人(2日間)	無料	展示中の猪熊作品の中から好きなものを選択しコラージュの技法を用いて自分なりの猪熊作品を制作する。
夏休み 「でかでか?ちびちび? ボックスアート」	1998.7.29(水) ~7.31(金) 9:30~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	5歳~中学生	109人(3日間)合計)	無料	様々な種類大きさの箱の中に廃品 を組み合わせて、たのしい世界を作 る。 大きさ、着色は自由。

ワークショップ名	開催日時·会場	講師	対 象	人数	参加費	内容
夏休み 「すすめ!いのくま探偵団」	1998.8.4以· 11以·18以 9:30~12:00 美術館内	美術館スタッフ	小·中学生	60人(3日間)合計)	無料	1班5~6人のグループで作品に 関するクイズを解きながら作品鑑賞 をし、美術館内、特に展示室内での マナーを学ぶ。
夏休み オープンワークショップ 「対話彫刻をつくろう」	1998.8.3(月) 〜8.20(木) 造形スタジオ	美術館スタッフ	対象不問	478人	¥100	様々な種類の廃品を利用しオリジナルの小さな彫刻を制作する。
「びっくりのかつらをつくろう」	1998.9.12生) 9:30~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小·中学生	27人	無料	自分がしてみたい髪形やあったら おもしろいと思う髪形のかつらを、廃 品で作る。
「カラフルバルーンであそぼう」	1998.9.26生) 9:30~12:00 造形スタジオ	磯島 芳樹	小·中学生	48人	¥500	カラフルな風船でオリジナル作品を 制作する。
「こわしてつくる?!	1998.11.14(±) 11.28(±)			11人	t Int	不用になった自転車を分解したり、
自転車ジャンボオブジェ」	9:30~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小·中学生	11人	無料	様々な廃品を接着して大きなオブジェを制作する。
「いただきま~すアートなうどん」	1998.12.12仕) 9:30~12:00 造形スタジオ	白井 敦士 (うどん職人)	小·中学生	33人	¥200	従来のうどんとは異なるいろいろな 形のうどんを作り、試食する。
「かさがキャンバス 夢のアンブレラ」	1999.1.23生) 9:30~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小·中学生	29人	無料	使えなくなった傘をキャンバスにして、絵を描いたり、廃品を接着してオリジナルの傘を作る。
「こんなのはじめて!	1999. 2. 13(±)· 27(±)	36 (A) 54 a 4	J + * * * th	18人	for del	廃品のタイヤに色々なものをつけた
タイヤにアート」	9:30~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小·中学生	25人	無料	り、色を塗ったりして、タイヤにアートする。
[=\constraint the - \chi \constraint	1999.3.13(±)· 27(±)	美術館スタッフ	小・中学生	31人	無料	子供達が想像する「謎の秘密基 地  を、主にダンボールを使って作
「謎の秘密基地をつくろう」	9:30~12:00 造形スタジオ	天削貼ハグツノ	/小・中子生	30人	無件	して、主にダンホールを使って作る。

# IV

## 教育普及事業

## ii コンサート·文化講演会

#### 23 東京混声合唱団 東混ゾリステン名曲コンサート 一懐かしい歌の花束ー

日 時 1995年6月7日(水) 19時開演

入場者数159人

会場 2階ミュージアムホール

入場料 指定席3,500円 自由席3,000円

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館,財団法人ミモカ美術振興財団

出演者 坂井春義(コンサートマスター),坂井和子(ピアノ),熊崎志津子,秋島博子(ソプラノ) 徳永香織,高橋響子(アルト),坂井春義,半田 暁(テノール),小林潤一,徳永祐一(バス)

#### 24 マダガスカルの民族楽器「ヴァリハ」の調べ

日 時 1995年6月24日(土) 18時30分開演

入場者数148人

会場 2階ミュージアムホール

入場料 指定席2,000円 自由席1,500円

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団

出演者 ジュスタン・ヴァリ、タオ・ラヴァオ、ドド・トヴォアリミノ

#### 25 | 古澤巖 ヴァイオリンの夜 ーサマー・コンサートー

日 時 1995年7月22日(土), 23日(日) 18時30分開演

入場者数22日273人, 23日254人

会 場 2階展示室

入場料 7,000円(全席自由)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団

出演者 古澤 巌(ヴァイオリン), フィリップ・ブッシュ(ピアノ), フランシス・グトン(チェロ) ポール・コレッティ(ヴィオラ)

#### 古澤巌 ミニコンサート

日 時 1995年7月22日(土) 16時30分開演

入場者数314人

会 場 2階展示室

入場料 無料

出演者 古澤 巌(ヴァイオリン), フィリップ・ブッシュ(ピアノ), フランシス・グトン(チェロ) ポール・コレッティ(ヴィオラ)

#### 26 クリストファー遙盟・尺八の世界

日 時 1995年10月21日(土) 18時30分開演

入場者数95人

会 場 3階展示室

入場料 3,000円(全席自由)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団

共 催 朝日新聞社, NHK高松放送局, 瀬戸内海放送

出演者 クリストファー・遙盟・ブレィズデル(尺八), きむらみか(声楽), 川村京子(山田流筝曲)

#### 27 冨田真理 ソプラノコンサート

日 時 1995年11月11日(土) 14時開演

入場者数175人

会場 2階ミュージアムホール

入場料 一般2,000円 中·高生1,000円

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団

出演者 冨田真理(ソプラノ), 北矢由美(ピアノ), 丸亀市立東中学校コーラス部

#### 28 ザイラー ピアノデュオコンサート

日 時 1995年12月9日(土) 18時30分開演

入場者数332人

会 場 2階展示室

入場料 3,500円(全席自由)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団

出演者 エルンスト・F・ザイラー, カズコ・M・ザイラー

#### 29 古澤巌&ソルティエ・ダーティスト

日 時 1996年3月16日(土), 17日(日) 18時30分開演

入場者数16日292人, 17日270人

会 場 2階展示室

入場料 7,000円(全席自由)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団

出演者 古澤 巌(ヴァイオリン), ステファン・プティジョーン(ピァノ), ベルトロン・セルベラ(ヴィオラ) ローレンス・アララ(チェロ), ジレ・サンス(コントラバス)

#### 古澤巌 ミニコンサート

日 時 1996年3月16日(土) 16時30分開演

入場者数170人

会 場 2階展示室

入場料 無料

出演者 古澤 巌(ヴァイオリン), ステファン・プティジョーン(ピアノ), ベルトロン・セルベラ(ヴィオラ) ローレンス・アララ(チェロ), ジレ・サンス(コントラバス)

#### 30 岩田英憲 パンの笛コンサート

日 時 1996年5月25日(土) 18時30分開演

入場者数167人

会場 2階ミュージアムホール

入場料 2,800円(固定席) 2,000円(移動席)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団

出演者 岩田英憲(パンの笛),中司弘子(ナレーター),渡辺朋子(ピアノ),広原香織(電子オルガン)

#### 31 マンディンカ・コンサート

日 時 1996年7月28日(日) 昼の部 15時開演 夜の部 18時30分開演 入場者数量の部/285人

会場 2階ミュージアムホール

夜の部/232人

入場料 昼の部 無料, 夜の部 前売1,000円(ドリンク付) 当日立見500円

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団

協 賛 大塚製薬

出演者 マンディンカ

#### 32 林峰男 チェロリサイタル

日 時 1996年10月6日(日) 18時30分開演

入場者数173人

会場 2階ミュージアムホール

入場料 3,000円(全席自由)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団, 文化庁

出演者 林 峰男(チェロ), 大島直子(ピアノ)

#### 林峰男 ミニコンサート

日 時 1996年10月6日(日) 16時10分開演

入場者数89人

会 場 2階ミュージアムホール

入場料 無料

出演者 林 峰男(チェロ), 大島直子(ピアノ)

#### 33 ザイラー ピアノデュオコンサート

日 時 1996年10月26日(土) 18時30分開演

入場者数202人

会場 2階ミュージアムホール

入場料 3,500円(全席自由)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館,財団法人ミモカ美術振興財団.文化庁

出演者 エルンスト・F・ザイラー, カズコ・M・ザイラー

#### ザイラー ミニコンサート

日 時 1996年10月26日(土) 16時10分開演

入場者数144人

会場 2階ミュージアムホール

入場料 無料

出演者 エルンスト・F・ザイラー, カズコ・M・ザイラー

#### 34 馬頭琴 コンサート

日 時 1996年12月1日(日) 14時開演

入場者数328人

会場 2階ミュージアムホール

入場料 無料

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団

共 催 丸亀市国際交流協会

出演者 サランホホー民族音楽団

#### 35 請田徳子 ソプラノコンサート

日 時 1996年12月21日(土) 14時開演

入場者数241人

会場 2階ミュージアムホール

入場料 一般2,000円 中·高生1,000円(全席自由)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団

出演者 請田徳子(ソプラノ), 橘美和子(ピアノ), 竹内まり(ナレーター)

#### 36 和波孝禧 ヴァイオリンコンサート

日 時 1997年3月1日(土) 18時30分開演

入場者数240人

会場 2階ミュージアムホール

入場料 3,000円(全席自由)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団

出演者 和波孝禧(ヴァイオリン), 土屋美寧子(ピアノ)

#### 和波孝禧 ミニコンサート

日 時 1997年3月1日(土) 16時開演

入場者数163人

会場 2階ミュージアムホール

入場料 無料

出演者 和波孝禧(ヴァイオリン), 土屋美寧子(ピアノ)

#### 37 スーザン・ホープナー フルートコンサート

日 時 1997年5月27日(火) 18時30分開演

入場者数200人

会 場 2階ミュージアムホール

入場料 一般3,000円 小・中・高生1,000円(全席自由)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団

出演者 スーザン・ホープナー(フルート), 小松 勉(ピアノ)

#### 38 | 古澤巌&フィリップ・ブッシュ ソナタの夜

日 時 1997年9月25日(木) 18時30分開演

入場者数403人

会場 3階展示室

入場料 5,000円(全席自由)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団

出演者 古澤 巌(ヴァイオリン), フィリップ・ブッシュ(ピアノ)

#### 音のアラベスク

日 時 1997年9月21日(日) 14時30分開演

入場者数296人

会場 2階ミュージアムホール

入場料 無料

主 催 財団法人ミモカ美術振興財団, 丸亀市国際交流協会

出演者 常味裕司(ウード), 吉見征樹(タブラ), 山下智子(ダンス)

#### 39 カルロ・グアイトーリ ピアノコンサート

日 時 1997年11月8日(土) 18時30分開演

入場者数208人

会場 2階ミュージアムホール

入場料 一般3,000円 小·中·高生1,000円(全席自由)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団

後 援 イタリア文化会館(イタリア大使館文化部)

出演者 カルロ・グアイトーリ(ピアノ)

#### 40 | 198ミモカニューイヤーコンサート 安田正昭ピアノリサイタル

日 時 1998年1月17日(土) 18時30分開演

入場者数219人

会場 2階ミュージアムホール

入場料 一般2,000円 小・中・高生500円(全席自由)

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団

出演者 安田正昭(ピアノ)

#### 41 古澤巌&山田武彦 ヴァイオリンの夜

日 時 1998年3月14日(土) 18時30分開演

入場者数292人

会 場 2階展示室

入場料 5,000円(全席自由)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館,財団法人ミモカ美術振興財団

出演者 古澤 巌(ヴァイオリン), 山田武彦(ピアノ)

#### ガムラン・マルガ・サリ コンサート

日 時 1998年5月17日(日) 14時開演

入場者数335人

会場 2階ミュージアムホール

入場料 無料

主催 財団法人ミモカ美術振興財団、丸亀市国際交流協会、丸亀お城まつり協賛会

出演者 マルガ・サリ(演奏者17人、舞踏者2人)

#### コンテンポラリーダンスのタベー・オストラバ国立バレエ団 イゴール・ヴェサーダと仲間たちー

日 時 1998年7月26日(日) 19時30分開演

入場者数500人

会 場 1階ゲートプラザ

入場料 無料

主 催 コンテンポラリーダンスの夕べ実行委員会

共 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団, 丸亀市国際交流協会

後 援 香川県国際交流協会

出演者 イゴール・ヴェサーダ, 野村朋子, ズテネック・コンヴァリーナ, 三上賀代他

#### 42 | 古澤巌 タイフーン・ナイト'98

日 時 1998年7月29日(水) 18時30分開演

入場者数357人

会場 3階展示室

入場料 一般8,000円 小·中·高生5,000円(全席自由)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団

出演者 古澤 巌(ヴァイオリン), フイリップ・ブッシュ(ピアノ), フランシス・グトン(チェロ) ポール・コレッティ(ヴィオラ)

#### 43 DIVA十谷川俊太郎

日 時 1998年10月4日(日) 14時開演

入場者数187人

会場 2階ミュージアムホール

入場料 一般3,500円 小・中・高生1,000円(全席自由)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団

出演者 谷川俊太郎(詩・朗読), 谷川賢作(作曲・ピアノ), 大坪寛彦(ベース), 高瀬麻里子(ヴォーカル)

#### 44 ゴンチチ アコースティックライブ

日 時 1999年2月13日(土) 19時開演

入場者数410人

会 場 3階展示室

入場料 一般5,500円 ペア10,000円(全席自由), 当日一般のみ6,000円

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団

出演者 ゴンチチ(ゴンザレス三上,チチ松村)

#### 45 | 聲明ライヴ サマヤ・サンガ

日 時 1999年3月6日(土) 19時開演

入場者数321人

会 場 3階展示室

入場料 一般500円(全席自由), 当日700円

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団

出演者 サマヤ・サンガ(声明), 栗田敬子(シンセサイザー), 森ゆきこ(サヌカイト・マリンバ)

#### MIMOCA文化講演会 1995年度

テーマ「詩が生まれるとき」

講 師 工藤直子(児童文学作家、詩人)

日 時 1995年7月29日(土) 午後2時~

会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 178人

# IV

## 教育普及事業

## iii 刊行物一覧

#### **1997年** (平成9年1月)



#### 佐藤忠良展

仕 様 47ページ

編集·発行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

制 作 株式会社電通西日本

内 容 エッセー 「猪熊さんと」 佐藤忠良/佐藤忠良エッセー 「芸術家の創造の苦しみ」(『講座現代芸術Ⅱ芸術家』より) /「顔に憑かれて」(『藝術新潮』11-6より)/「かっこのつ かぬ父親」(『母の友』128より)/作品図版/リスト/佐藤 忠良プロフィール

発行部数 1,000部 価 格 1,800円

1997年 (平成9年6月)



#### イサム・ノグチと三宅一生 アリゾナ

仕 様 A 4 判48ページ経文仕上げ 編集・発行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

本 容 作品図版/詩 「旅 3 Arizona」 谷川俊太郎/ことば クリストとジャンヌ=クロード/エッセー 「イサムさ んとイッセイさん」 石岡瑛子/「空間芸術としてのファ ッションデザイン」 谷口吉生/「時の遠心ーイサム・ノ グチ」 酒井忠康/「エネルギーや精神的充足感をもたら す、進化し続ける衣服」 生駒芳子/イサム・ノグチ 三宅一生プロフィール/作品リスト

発行部数 3,500部 価格 3,000円

**1997年** (平成 9 年10月)



#### 丸亀築城四百年記念 丸亀藩京極家名宝 野々村仁清展

仕 様 47ページ

編集·発行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

内 容 出品図版 (作品解説 矢部良明)/エッセー「野々村仁 清ーその偉大な陶工の生涯と作品」 矢部良明/「丸亀藩 京極家と仁清」 岡 佳子/作品目録/仁清と丸亀藩京極 家関係略年譜表

発行部数 2,000部

価格 1,500円

**1998年** (平成10年10月)



#### 開館7周年記念 荻須高徳と猪熊弦一郎展

仕 様 A4版3分冊

編集·発行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

内 容 出品図版/作品リスト/エッセー「荻須高徳の生涯とそ の画業」 山田美佐子/「荻須高徳と猪熊弦一郎-猪熊弦 一郎の滞仏期を中心としてー」 植松由佳/プロフィー

発行部数 1,000部

価格 3,000円



# IV

### 教育普及事業

## iv 美術図書室利用状況

#### 1995年度 (平成7年度)

月	利用数	累計	日数
95.4月	1 9 7	1 9 7	2 6
5月	4 0 7	6 0 4	2 5
6月	283	8 8 7	2 5
7月	4 0 3	1,290	2 5
8月	7 2 2	2,012	2 7
9月	3 5 4	2,366	2 4
10月	3 9 1	2,757	2 6
11月	3 8 2	3,139	2 6
12月	1 9 9	3,338	2 1
96.1月	2 4 2	3,580	2 5
2月	2 2 0	3,800	2 5
3月	3 0 8	4,108	2 6

301日 4,108人 (平均 13.6人)

#### 1996年度 (平成8年度)

文(十成6年	1/2/		
月	利用数	累計	日数
96.4月	3 3 5	3 3 5	3 0
5月	188	5 2 3	2 1
6月	3 5 6	8 7 9	2 9
7月	2 9 4	1,173	2 5
8月	5 7 4	1,747	3 1
9月	3 6 4	2,111	2 4
10月	3 5 5	2,466	2 3
11月	3 5 3	2,819	3 0
12月	1 9 1	3,010	2 4
97.1月	1 6 6	3,176	1 8
2月	2 8 8	3,464	2 8
3月	2 9 8	3,762	2 8

311日 3,762人 (平均 12.1人)

#### 1997年度 (平成9年度)

月	利用数	累計	日数
97.4月	172	172	2 6
5月	2 9 5	4 6 7	3 1
6月	2 2 1	6 8 8	2 2
7月	4 6 4	1,152	3 1
8月	1,017	2,169	2 6
9月	2 9 5	2,464	2 4
10月	2 2 3	2,687	1 9
11月	2 7 6	2,963	2 2
12月	2 2 1	3,184	2 2
98.1月	1 8 9	3,373	2 8
2月	2 5 3	3,626	2 8
3月	2 2 6	3,852	2 7

306日 3,852人 (平均 12.6人)

#### **1998年度** (平成10年度)

月	利用数	累計	日数
98.4月	2 5 1	2 5 1	2 7
5月	3 3 9	5 9 0	2 9
6月	187	7 7 7	2 5
7月	2 5 3	1,030	2 6
8月	4 0 9	1,439	2 5
9月	262	1,701	3 0
10月	1 9 7	1,898	2 5
11月	172	2,070	3 0
12月	1 0 1	2,171	2 4
99.1月	1 8 8	2,359	2 5
2月	1 2 4	2,483	2 3
3月	1 7 0	2,653	3 0

319日 2,653人 (平均 8.3人)

# IV 教育普及事業v ミモカフレンド

美術館で開催する展覧会、講演会などの事業を通して、 猪熊芸術及び内外の現代美術に親しむ事を目的として 1995年4月に発足した。なお、名称については、生前猪 熊が考案したものである。

### ●主な活動内容

#### 第1回美術鑑賞旅行

1995年11月25日(土) イサム・ノグチ アトリエ (牟礼町) 徳島県立近代美術館 「文化の森開園 5 周年記念展 ―50年後―彼らはなぜ戦争を表現するのか―」 参加者35名

#### 第2回美術鑑賞旅行

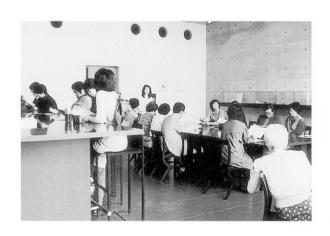
1996年12月1日(日) 広島市現代美術館 「ル・コルビジェ展」 広島県立美術館 「アジアの染色展」 参加者40名

### 第3回美術鑑賞旅行

1997年10月5日(日) 奈義町現代美術館 大原美術館 参加者24名

### 第4回美術鑑賞旅行

1998年11月8日(日) 植田正治写真美術館 アジア博物館・井上靖記念館 水木しげるロード 参加者39名





# $\bigvee$

## その他事業

## i ミュージアムショップ

ミュージアムショップは1階エントランスホールに設けられている。商品は全てオリジナルであり、猪熊弦一郎自らグッズ製作に携わった。猪熊の『街では売ってないもの、美術館だからあるもの』を提供するという姿勢を受け継ぎ、作品をもとにした商品を毎年新しく開発している。



## ii カフェ

これまでは業者に営業委託していたが、1995年(平成7年)6月1日より、カフェレスト MIMOCA の運営を財団法人ミモカ美術振興財団が行うことになった。財団直営となったことにより、すべての美術館施設の運営が一体化された。1998年からは、展覧会毎にその内容と開催期間に合わせた特別メニューを提供しており、来館者の好評を博している。



# VI

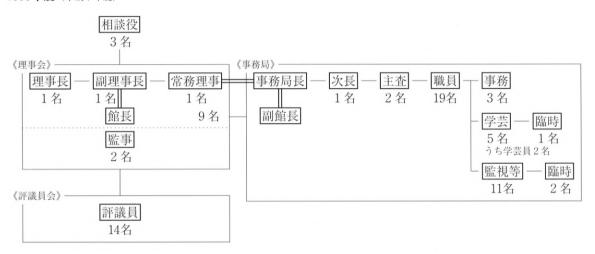
# 入館者状況

1995年4月1日~1995年5月7日 猪熊弦一郎 作品とコレクション 3 2 1995年5月13日~1995年6月11日 版画にみる マティスの世界 2 6 1995年7月2日~1995年8月27日 ドゥエイン・ハンソン展 4 9 1995年9月10日~1995年11月5日 イサム・ノグチと勅使河原宏展 4 9 1995年11月11日~1995年12月24日 マーク・ロスコ展 3 8 1995年1月3日~1996年2月25日 猪熊弦一郎 妻の肖像展 4 7	1995年度 3,448 4,810 21,689 10,001 5,817 4,138 4,514 54,323 計108,740	(平成7年度)       108       185       443       204       153       88       205
1995年 5 月13日~1995年 6 月11日   版画にみる マティスの世界   2 6   1995年 7 月 2 日~1995年 8 月27日   ドゥエイン・ハンソン展   4 9   1995年 9 月10日~1995年11月 5 日 イサム・ノグチと勅使河原宏展   4 9   1995年11月11日~1995年12月24日 マーク・ロスコ展   3 8   1995年 1 月 3 日~1996年 2 月25日   猪熊弦一郎 妻の肖像展   4 7	4,810 21,689 10,001 5,817 4,138 4,514 54,323	1 8 5 4 4 3 2 0 4 1 5 3 8 8
1995年7月2日~1995年8月27日   ドゥエイン・ハンソン展   49   1995年9月10日~1995年11月5日   イサム・ノグチと勅使河原宏展   49   1995年11月11日~1995年12月24日   マーク・ロスコ展   38   1995年1月3日~1996年2月25日   猪熊弦一郎 妻の肖像展   47	2 1, 6 8 9 1 0, 0 0 1 5, 8 1 7 4, 1 3 8 4, 5 1 4 5 4, 3 2 3	4 4 3 2 0 4 1 5 3 8 8
1995年9月10日~1995年11月5日	1 0, 0 0 1 5, 8 1 7 4, 1 3 8 4, 5 1 4 5 4, 3 2 3	2 0 4 1 5 3 8 8
1995年11月11日~1995年12月24日       マーク・ロスコ展       38         1995年1月3日~1996年2月25日       猪熊弦一郎 妻の肖像展       47	5,817 4,138 4,514 54,323	1 5 3 8 8
1995年1月3日~1996年2月25日 猪熊弦一郎 妻の肖像展 47	4,138 4,514 54,323	8 8
	4,514 54,323	
1000年 2 日10日 1000年 2 日21日 「	54,323	2 0 5
1996年3月10日~1996年3月31日   小磯良平と猪熊弦一郎展 22	5 4 , 3 2 3	
1995年4月1日~1996年3月31日 常設展 3 0 6	計100740	1 7 8
	(累計 503,443)	
	1996年度	(平成8年度)
1996年4月1日~1996年5月6日 小磯良平と猪熊弦一郎展 3 6	8,093	2 2 5
1996年5月12日~1996年6月30日 アントニ・タピエス 50	6,009	1 2 0
1996年7月7日~1996年9月1日 インサイドストーリー 同時代のアフリカ美術 57	10,624	186
1996年 9 月 8 日 ~ 1996年10月13日 シンディ・シャーマン/森村泰昌展 - 「女優シリーズ」より - 3 6	5,573	1 5 5
1996年10月26日~1997年1月5日 リチャード・マイヤーとフランク・ステラー建築と絵画の接点 65	6,495	1 0 0
1997年1月18日~1997年3月30日 佐藤忠良と猪熊弦一郎展 7 2	7,062	9 8
1996年4月1日~1997年3月30日 常設展 3 2 4	47,235	1 4 6
	計 9 1, 0 9 1 (累計 594,534)	
		(平成9年度)
1997年4月12日~1997年6月8日 ジム・ダイン展―身体の比喩 58	5,555	9 6
1997年6月22日~1997年8月31日 イサム・ノグチと三宅一生 アリゾナ 71	27,184	3 8 3
1997年9月6日~1997年10月19日 ロバート・メイプルソープ展 44	7,147	1 6 2
1997年10月25日~1997年11月3日   丸亀城築城四百年記念 丸亀藩京極家名宝 野々村仁清展     1 0	33,035	3,303
1997年11月8日~1997年12月14日 いす・100のかたち ヴィトラ・デザイン・ミュージアムの名品 37	7,151	1 9 3
1997年12月20日~1998年3月1日 猪熊弦一郎の宇宙-顔曼陀羅- 65	3,978	6 1
1998年3月7日~1998年3月31日 ピカソ「愛とエロチシズム」ピエロ・クロムランク版画コレクション 25	3,428	1 3 7
1997年4月12日~1998年3月31日 常設展 3 2 9	88,133	2 6 8
	計 1 7 5, 6 1 1 (累計 770,145)	
Total II a secret I Frank III Feb. 10		(平成10年度)
1998年4月1日~1998年4月12日 ピカソ「愛とエロチシズム」ピエロ・クロムランク版画コレクション 12	2,251	188
1998年4月18日~1998年5月31日     バスキア展       44	8,764	199
1998年6月6日~1998年7月19日 ジョルジュ・ブラック回顧展 4.4	5,657	1 2 9
1998年7月25日~1998年8月23日 猪熊弦一郎と子どもたち 3 0	4,031	1 3 4
1998年8月30日~1998年10月18日 森村泰昌〔空装美術館〕-絵画になった私 5 0	10,014	200
1998年10月25日~1998年12月20日     開館7周年記念     荻須高徳と猪熊弦一郎展     57	6,886	1 2 1
1999年1月1日~1999年1月31日 大藪雅孝展 浸透するまなざし 3 1	6,433	2 0 8
1999年2月6日~1999年3月31日 猪熊弦一郎展 スペースの散歩 5.4	3,357	6 2
1998年4月1日~1999年3月31日 常設展 3 2 7	47,719	1 4 6
	計 9 5 , 1 1 2 (累計 865, 257)	

# VII

### 組織図

#### 1995年度 (平成7年度)



 相談 役 藤田慎一郎 大原美術館館長
 荒井 茂雄 新制作協会会員

 小倉 忠夫 名古屋ボストン美術館館長

理 事 片山 圭之 丸亀市市長 池川 敏幸 香川大学名誉教授

 笹川
 髙美
 教育長
 小田原保雄
 丸亀市教育委員会委員長

 山内
 賢明
 丸亀市議会議長
 鎌田
 順二
 丸亀市生涯学習部長

松田 正二 丸亀商工会議所会頭 長原 孝弘 副館長

河野 虎雄 丸龟市文化協会会長

事 香川 芳弘 丸亀市監査委員 識見委員

涉 丸亀市収入役

秋山

 評議員 小野 昭七
 丸亀市社会教育委員委員長
 大西 康彦 彫刻家

 森安満里子 婦人団体連絡協議会会長
 川松 美智 丸亀ユネスコ協会事務長

近石美智子 まちづくり女性会議代表 川崎 展子 洋画家 (善通寺西高講師)
 大西 洋二 丸亀市小学校研究会図工工作部会 関 宏 丸亀教育委員会生涯学習課長
 草薙 貞子 丸亀市幼稚園長会会長 岸本 浩一 丸亀教育委員会文化課長

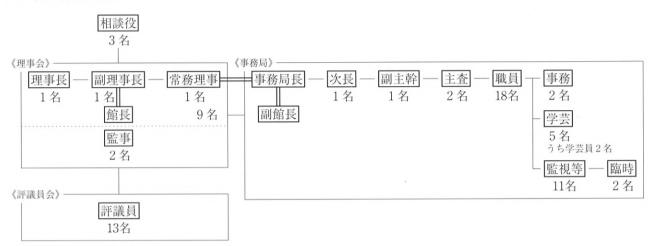
 後藤
 勝代
 丸亀市保育所長会会長
 酒井
 明世
 ウイメンズネットワーク香川代表

 香川
 宏
 前四国新聞社文化部長
 山地
 洋子
 子供をとりまく文化を考える会

[1996年3月31日現在]

### 1996年度 (平成8年度)

事 香川 芳弘



荒井 茂雄 新制作協会会員 相談役藤田慎一郎 大原美術館館長 小倉 忠夫 名古屋ボストン美術館館長

理 片山 圭之 丸亀市市長 池川 敏幸 香川大学名誉教授 小田原保雄 丸亀市教育委員会委員長 笹川 髙美 教育長 鎌田 順二 丸亀市生涯学習部長

山内 賢明 丸亀市議会議長 正二 長原 孝弘 副館長 松田 丸亀商工会議所会頭

河野 虎雄

丸亀市文化協会会長

丸亀市監査委員 識見委員

秋山 涉 丸亀市収入役

評議員 森安満里子 婦人団体連絡協議会会長 川松 美智 丸亀ユネスコ協会事務長 川崎 展子 洋画家 (善通寺西高講師) 近石美智子 まちづくり女性会議代表 関 大西 洋二 丸亀市小学校研究会図工工作部会 宏 丸亀教育委員会生涯学習課長

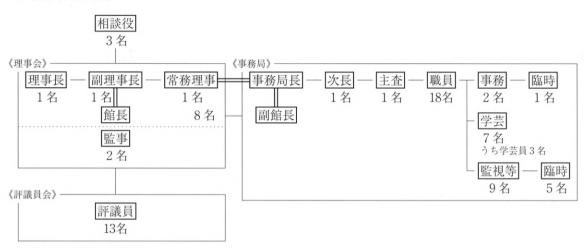
岸本 浩一 丸亀教育委員会文化課長 草薙 貞子 丸亀市幼稚園長会会長

酒井 明世 ウイメンズネットワーク香川代表 後藤 勝代 丸亀市保育所長会会長 山地 洋子 子供をとりまく文化を考える会 香川 宏 前四国新聞社文化部長

大西 康彦 彫刻家

[1997年3月31日現在]

#### 1997年度 (平成9年度)



相談 役 藤田慎一郎 大原美術館館長 荒井 茂雄 新制作協会会員 小倉 忠夫 名古屋ボストン美術館館長

 理
 事
 片山
 圭之
 丸亀市市長
 河野
 虎雄
 丸亀市文化協会会長

 笹川
 髙美
 教育長
 小田原保雄
 丸亀市教育委員会委員長

 松下
 弘
 丸亀市議会議長
 鎌田
 順二
 丸亀市生涯学習部長

 松 Γ
 50
 丸亀市議会議長
 鎌田 川二 丸亀市生涯学習部長

 松田 正二 丸亀商工会議所会頭
 長原 孝弘 副館長

監 事 香川 芳弘 丸龟市監査委員 識見委員

 評議員 小河
 稔 丸亀市社会教育委員委員長
 川松 美智 丸亀ユネスコ協会事務長

 森安満里子
 婦人団体連絡協議会会長
 川崎 展子 洋画家 (善通寺西高講師)

 大田
 政良
 丸亀市小学校研究会図工工作部会
 浅海
 和明
 丸亀教育委員会生涯学習課長

 植田
 静香
 丸亀市幼稚園長会会長
 岸本
 浩一
 丸亀教育委員会文化課長

 大岡
 佳子
 丸亀市保育所長会会長
 酒井
 明世
 ウイメンズネットワーク香川代表

香川 宏 前四国新聞社文化部長 山地 洋子 子供をとりまく文化を考える会

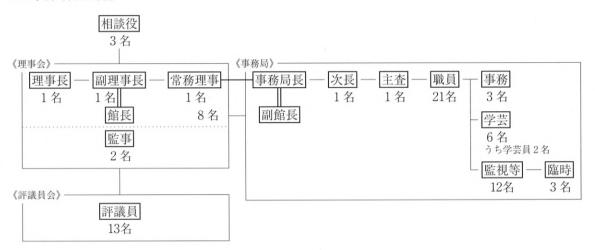
大西 康彦 彫刻家

涉 丸亀市収入役

秋山

[1998年3月31日現在]

#### 1998年度 (平成10年度)



相談役 藤田慎一郎 大原美術館館長

小倉 忠夫 名古屋ボストン美術館館長

荒井 茂雄 新制作協会会員

事 片山 圭之 丸亀市市長 理

小佐古公士 教育長

岩崎 保 丸亀市議会議長

池田 隆 丸亀商工会議所副会頭

河野 虎雄 丸亀市文化協会会長

小田原保雄 丸亀市教育委員会委員長

上原 宏一 丸亀市生涯学習部長

岸本 浩一 副館長

事 香川 芳弘 丸亀市監査委員 識見委員

秋山 涉 丸亀市収入役

川松 美智 丸亀ユネスコ協会副会長 評議員 小河 稔 丸亀市社会教育委員委員長

川崎 展子 洋画家 森安満里子 婦人団体連絡協議会会長

大田 政良 丸亀市小学校研究会図工工作部会 浅海 和明 丸龟教育委員会生涯学習課長 後藤 隆史 丸亀市教育委員会文化課長 新川 操 丸亀市幼稚園長会会長

大岡 佳子 丸亀市保育所長会会長 酒井 明世 ウイメンズネットワーク香川代表

山地 洋子 子供をとりまく文化を考える会 香川 宏 前四国新聞社文化部長

大西 康彦 彫刻家

[1999年3月31日現在]



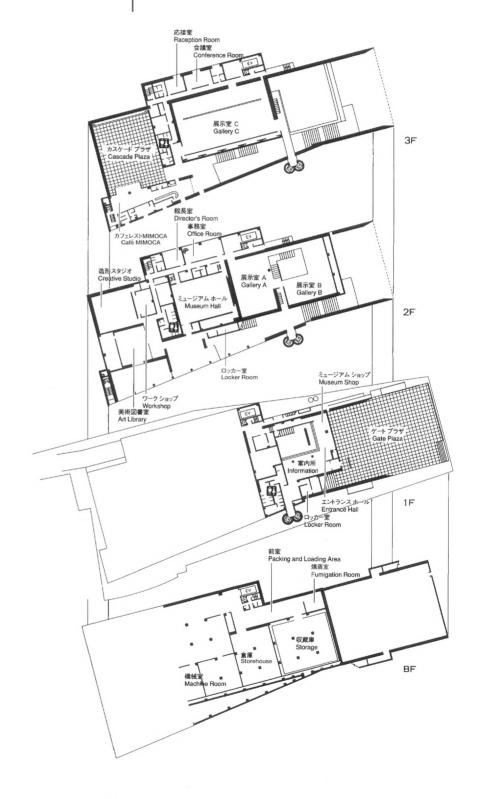
### 施設概要

所 在 地 丸亀市浜町80番地1 敷地面積 5,974.53m2 規模構造 鉄骨鉄筋コンクリート構造 地下1階, 地上3階 最高高さ 20m 建築面積 3,564.80 m2 延床面積 11,948.14m2 仕上外壁 アルミ押出型材-Y(スパンドレル) 石(バーリントンスレート) コンクリート打放し 仕上内装 床:大理石,花崗岩,フローリングタイ ル,ライムストーン,カーペットタイル,ゴム タイル, 塩ビシート 壁:クロステックス(展示室)ナプコホワ 仆, ビニールクロス, 布クロス 天井:岩綿吸音ボード AEP,ボード塗 装,アルミパネル 設 計 谷口建築設計研究所 理 丸亀市建築課 谷口建築設計研究所 施 工 建築工事 ㈱鹿島建設 電気設備工事 (株)栗原工業 機械設備工事 (株)川崎設備工業 平成元年11月21日着工 T 平成3年6月20日竣工 3階●展示室C 642.74 m<sup>2</sup> Gallery C カスケードプラザ 532. 40 m<sup>2</sup> Cascade Plaza カフェレスト MIMOCA 236. 67 m<sup>2</sup> Café MIMOCA 会議室 Conference Room 2階●展示室 A 285.66 m<sup>2</sup> Gallery A 展示室 B 286. 96 m<sup>2</sup> Gallery B ミュージアムホール 297. 05 m<sup>2</sup> Museum Hall 170席(舞台照明·音響·映像設備完備) 造形スタジオ 202. 15m<sup>2</sup> Creative Studio ワークショップ 60.00 m<sup>2</sup> Room for Workshop 美術図書室 195. 20m<sup>2</sup> Art Library ロッカー室 Locker Room 1階●案内所 Information ミュージアムショップ Museum Shop

ロッカー室 Locker Room BF・収蔵庫

Storage

373. 64 m<sup>2</sup>



# IX

### 利用案内

1995年度まで 開館時間 午前9時30分~午後5時(入館は4時30分まで) 毎週月曜日 (月曜日が休日の場合はその翌日)、年末年始 休館日 観覧料 常設展 一般 300円 (団体240円) 中·高生 100円 (団体80円) その都度料金設定 企画展 小学生以下 無料 身体障害者手帳、療育手帳をお持ちの方(介護者を含む) 中讃広域行政圏に住所をお持ちの65歳以上の方 \*中讃広域行政圈-丸亀市·善通寺市·綾歌町· 飯山町·琴南町·満濃町·琴平町·多度津町· 仲南町の2市7町 割引 20名以上の団体 2割引 1996年度から 開館時間 午前10時~午後6時(入館は5時30分まで) 年末・12月25日~31日、他に展示替えのための臨時休館(会期中無休) 休館日 300円 (団体240円) 観 覧 料 常設展 一 般 大学生 200円 (団体160円) 企画展 その都度料金設定 無料 高校生以下 身体障害者手帳、療育手帳をお持ちの方(介護者を含む) 中讃広域行政圏に住所をお持ちの65歳以上の方 \*中讃広域行政圈-丸亀市・善通寺市・綾歌町・ 飯山町·琴南町·満濃町·琴平町·多度津町· 仲南町の2市7町 割引 20名以上の団体 2割引 □新幹線を利用する場合 交通案内 東京~岡山 約3時間 ①特急を利用の場合 岡山~丸亀 特急 約40分 ②マリンライナー (坂出乗換) を利用の場合 岡山~坂出 マリンライナー 約40分 坂出~丸亀 普通約10分 JR丸亀駅から徒歩約1分 □飛行機を利用する場合 東京~高松空港 約1時間 ①空港からタクシーを利用の場合 約40分 ②空港からバス、高松からJR利用の場合 バス 約40分 電車(特急)約20分 □高速道路を利用する場合 岡山~瀬戸中央自動車道 坂出北 I Cから丸亀市方面へ約20分 松山から 松山・高松自動車道 善通寺 I Cから丸亀市方面へ約15分 高知から 高知・高松自動車道 善通寺 I Cから丸亀市方面へ約15分

徳島から 徳島自動車道 美馬ICから丸亀市方面へ約40分

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館年報 1995-98

平成12年3月 印刷

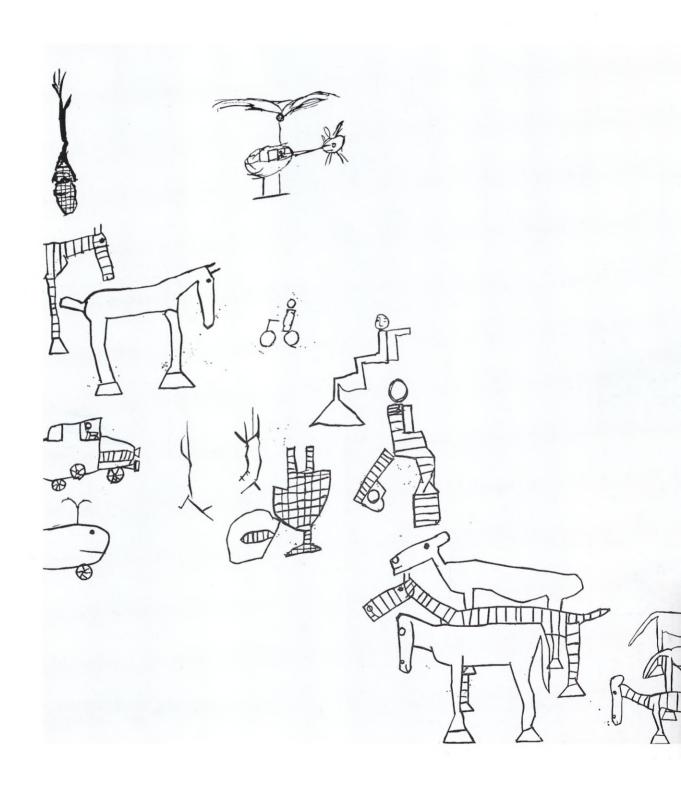
平成12年3月 発行

編集·発行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

香川県丸亀市浜町80-1 TEL(0877)24-7755

印 刷 平和写真印刷株式会社

香川県丸亀市土器町北1-18 TEL(0877)23-1300



Marugame Genichiro-Inokuma Museum Of Contemporary Art Quadrennial Report 1995-1998